

(基礎分野)

授業科目	論理的思考の基礎	講師	外部講師	実務経験	単位数
					1
授業の概要・学習目標	講義概要・方針 論理的に思考するための知識を身につけ、理解したうえで実際の表現活動を行い、学生同士においても力を養う。また、看護師という職業に必要な論理の基礎を学習する。 論理的に思考して、問題を整理し、レポートにまとめる方法を学ぶ。レポートのテーマには「教育」を取り上げ、これまで受けてきた教育経験を対象化して、問題を明らかにし論じられるようになることを目指す。 ＜学習目標＞ 正しい思考の形式および法則を学び、物事を論理的に考え、表現する力を学ぶ。				時間数
				15	
					学年
				1	
					時期
					前期
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1 ～ 7	1. 論理学とは 2. 命題と論理 3. 推理と判断 4. 演繹と帰納 5. 実用的論理術			講義 講義 講義 講義 講義 ワーク	外部講師
テキスト		井上千以子(2022)／レポート・論文作成法／慶応義塾大学出版会			
評価方法		課題（30点）、 課題レポート（70点）			

(基礎分野)

授業科目	論理的思考の応用	講師	外部講師	実務経験	単位数
					1
授業の概要・学習目標	講義の概要・方針 「論理的思考の基礎」での学びを発展させ、表現活動を行う。 自己の傾向を捉え、論理的に考え表現する力を更に向上させる。 ＜学習目標＞ 1. 文献や看護学実習における経験をモチーフに、言語表現と文章表現により力をつけ、臨地でも論理的な表現ができるようになる。 2. 対話型論証モデルを習得できる。				時間数
					15
					学年
					2
					時期
					前期
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1	1. 課題設定			講義	外部講師
2	2. 情報を調べ活かす（文献検索とクリティーク）			講義	
3	3. 文章の組み立て			講義	
4	4. パラグラフの記述			講義	
5	5. 文章、表現、形式の点検			講義	
6・7	6・7 テーマに沿ってワーク・発表・評価			ワーク 発表	
テキスト		井上千以子(2022)／レポート・論文作成法／慶応義塾大学出版会			
評価方法		発表（50点）、課題レポート（50点）			

(基礎分野)

授業科目	情報科学	講師	外部講師	実務経験	単位数
					1
授業の概要・学習目標	講義の概要・方針 統計学は、看護の対象である人間を理解する方法のひとつである。また看護実践では必要な情報の収集及び処理が大切であり、情報の取り扱い方を学ぶことでその思考過程が養われる。 情報化社会にともない、医療・看護の分野でもコンピュータが導入され、それを活用できる技術が要求されることから、その技術を身につけることを目指す。 ＜学習目標＞ 1. 統計の解釈及びデータ処理の方法について理解し、看護を科学的に追求する姿勢が身につく。			時間数	
				15	
				学年	
				3	
				時期	
				前期	
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1 ～ 7	1. 統計学とは 2. 看護と情報科学 3. コンピュータの基礎知識 4. パーソナルコンピュータによる演習			講義・演習 講義・演習 講義・演習 講義・演習	外部講師
テキスト		講師作成資料を使用する			
評価方法		筆記試験（100点）			

(基礎分野)

授業科目	I C Tの活用	講師	外部講師	実務経験	単位数
					1
授業の概要・学習目標	講義の概要・方針 看護において取り扱う情報は、看護実践に重要不可欠な意味を持ち、慎重に取り扱うことが求められる。臨床では電子カルテを使い多職種間で情報を共有している。これからの医療職者には、さらに地域の人々や地域の多職種同士でデジタル機器を使って情報の共有や交流をしていくことが求められる。 デジタル技術による I C T機器を使い、看護の対象となる人や多職種と様々な知識や情報をやり取りして共有するコミュニケーション力は不可欠となる。質の高い看護を提供するには、I C T機器操作を修得し、適切な情報を見極め活用できる能力を身につけることが必要であるため、学校生活で必要となる通信機器、インターネットなどの原理などの基礎から情報の通信・伝達、情報を用いた交流に活用する方法等を学ぶ。 <学習目標> 情報を通信・伝達・活用するために必要な知識や方法を理解し、情報を正しく取り扱い双方向で交流する基礎的な行動がとれる。				時間数
					1 5
					学年
					2
					時期
					後期
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1	1. コンピューターの基本操作、個人利用の環境の設定、施設・機器マナー 2. 電子メール、タイピングソフトの操作、コンピューターの基礎 3. コンピューター・リテラシー 4. 文書作成 5. 図などを含んだ文書作成 6. プレゼンテーション（動く場面）			講義	外部講師
}				講義	
				講義	
				講義	
				*教室と O A室を 使用する	
				* P C使用	
7					
テキスト		講師作成資料を使用			
評価方法		筆記試験（100点）			

(基礎分野)

授業科目	生命倫理	講師	外部講師	実務経験	単位数
					1
授業の概要・学習目標	講義の概要・方針 医療スタッフを目指す者としてという以前に、人として生命対してどう認識するのか、その問いから始め、自分の認識と向き合う。 更に、医療スタッフの看護師として、働く現場で起こり得る事象について、倫理的な側面から理解する。 ＜学習目標＞ 生命に対する倫理的な意識を高め、自分の意見を述べられる力を身につける。				時間数
					20
					学年
					1
					時期
					前期
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1	1. 生命倫理とは何か 2. 生命倫理と価値、健康と病い、生活の質 3. 倫理的判断の原則と意思決定のステップ 4. クライアントの「知る権利」と「守秘義務」 5. 「クライアント-医療従事者」関係、「相談と転移」 6. 生命倫理に関連する社会問題、トピックス 7. ストレスコーピング 8. ディベート			講義	外部講師
)				講義	
				講義	
				講義 ワーク	
				講義	
				講義	
				講義	
				7	
テキスト	講師作成資料を使用				
評価方法	課題（40点）、筆記試験（60点）				

(基礎分野)

授業科目	生活科学	講師	外部講師	実務経験	単位数
					1
授業の概要・学習目標	講義の概要・方針 看護は日常生活の援助を中心とする役割を持っている。よりよく生きるための生活者の基本について、衣・食 住を中心に学習する。日々、何げなく行っている 生活のもつ意味や、根拠、歴史的な背景、今後の課題などについて学習することによって、対象に応じた看護技術に発展させることができる。さらに生活体験の少ない学生にとって、自分自身の生活を振り返る機会とし、日常生活の基本的な援助ができる専門職業人としての態度形成につながることを期待したい。 <学習目標> 地球上でみられる“日常生活”に関連する現象を理解する。			時間数	
				20	
				学年	
				1	
				時期	
				前期	
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1 ～ 6	1. 地球環境と生活 1) 温暖化 2) 自然災害			講義	外部講師
7	2. 食と生活 1) 食と栄養 2) 食の安全性 3) 栄養素の種類と効用 4) 健康・活動と食生活			講義	外部講師
8 ～ 10	3. 衣服と生活 1) 衣服の役割 2) 機能性と安全性、快適性 3) 被服の取り扱いと管理			講義	外部講師
テキスト		藤城敏幸／東京教学社 第2版／新編 生活科学			
評価方法		1. 地球と環境：筆記試験（50点） 2. 食と生活：課題レポート（20点） 3. 衣服と生活：毎回講義終了前に行う小テストによる客観試験評価（計30点）			

授業科目	英語	講師	外部講師	実務経験	単位数
					1
授業の概要・学習目標	講義の概要・方針 国際化に伴い、外国人に看護を提供する機会が増えてきている。看護を提供するに当たっては、異文化の理解と看護の対象者の苦痛やニーズに対応できるコミュニケーション能力が必要となる。また看護の発展のためには外国の文献講読の能力も必要となる。これまでの基礎を踏まえ、継続学習ができる動機付けとしたい。 <学習目標> 1. 不安と苦痛を感じている外国人患者に対して慌てず優しい気持ちで寄り添うことができる基本英語を理解する。 2. ネイティブの英語を聞きとれるようになる。 3. 英語基礎能力を深め、国際社会に対応する言語能力と文献活用能力が理解できる。				時間数
					20
					学年
					1
					時期
					前期
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1 }	1. 英文法の基礎			講義	外部講師
	2. 医療英語と医療英会話			講義	
	3. 英語劇の発表（演習）			グループワーク 発表	
10	4. 異文化の理解（生活習慣や思考の理解）			講義	
テキスト		山田千夏・山田貞子／実践メディカル英会話／MCメディカ出版			
評価方法		筆記試験（100点）			

(基礎分野)

授業科目	社会学	講師	外部講師	実務経験	単位数
					1
授業の概要・学習目標	講義の概要・方針 看護の対象は個人及びその家族であり、使命は“人間の人間生活に寄与すること”である。まずは、広く「社会」を理解し、次第に「個、家族」の最小の単位と集団へと内容を深める。 少子高齢化が一段と進み、家族形態も変わっている。その変化などから生じている“虐待”“介護”“独居”など、現代の家族が直面する種々の問題を知り、今後の看護学の学習へ活かせるようにする。 <学習目標> 人間が世の中で生きることと社会の関連、その構造について理解できる。				時間数
					20
					学年
					1
					時期
					前期
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1 回 10	1. 社会と人間関係 2. 社会集団と構造 3. 社会経済 4. 家族 5. 社会問題と医療・福祉対策			講義 講義 講義 講義 講義	外部講師
テキスト		1. 系統看護学講座 社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度③／医学書院 2. ナーシンググラフィカ 健康と社会・生活／MCメディカ出版			
評価方法		課題レポート（100点）			

(基礎分野)

授業科目	教育学	講師	外部講師	実務経験	単位数
					1
授業の概要・学習目標	講義の概要・方針 社会に適応し、文化の伝承と発展をめざし自己の能力 を十分に発揮し、生き生きと人生をおくる上で、教育は重要である。心身ともに健全に成長発達していく上での教育の作用の重要性を学ばせ、学生自身の成長発達と看護に生かす能力を養いたい。 自己教育力は、健康の保持・増進や健康回復における職業教育，女性の社会進出と教育，患者教育・指導を行う上で重要であり、さらに専門職業としての学生自身の学ぶ姿勢として重要である。 <学習目標> 1. 教育の本質や患者教育・指導を行う際の基本を理解する。 2. 成長発達および文化遺産の伝承などの教育の機能について、その目的・内容・方法などの領域について理解する。			時間数	
				20	
				学年	
				1	
				時期	
				後期	
回数	学 習 内 容		授業方法	講師	
1	1. 教育の本質		講義	外部講師	
10	2. 教育とケアリング		講義		
	3. 教育の目的と方法		講義		
	4. 学校教育・家庭教育・社会教育の理念と 実態		講義		
	5. 発達と教育作用		講義		
	6. 現代教育の課題（家庭及び学校教育の問題）		講義		
10	7. ライフサイクルと教育		講義		
テキスト		古屋恵太／教育の哲学・歴史／学分社			
評価方法		課題（40点）、課題レポート（60点）			

(基礎分野)

授業科目	人間関係論	講師	外部講師	実務経験	単位数
					1
授業の概要・学習目標	講義の概要・方針 看護は人間と人間の良好な関係が築けてこそ、効果的となる。看護の場は、医療施設から家庭内と幅広く、看護の対象も全てのライフサイクルにある人、各健康段階にある人と様々である。患者や家族はもちろんのこと、同僚や他の専門職、社会的なサポートシステムとしての人間関係などに発展させて理解し、コミュニケーション技法やカウンセリング技法の演習を交えることで、人間関係がスムーズに展開できる基礎能力を身につけることを目指す。 <学習目標> 1. 人間関係についての基礎的な知識から実際の方法論にいたるまで、総合的に理解する。 2. 人間の発達上の特徴、変化あるいは乗り越えなければならない課題や役割などを理解し、看護に活用する基本を理解する。				時間数
					20
					学年
					1
					時期
					前期
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1	1. 人間生活と人間関係			講義	外部講師
10	2. 社会的相互作用と社会的役割			講義	
	3. コミュニケーションとその障害			講義	
	4. 人間関係の研究と技法			講義	
	5. コミュニケーション・カウンセリング技法の実際			講義	
テキスト		講師作成資料を使用			
評価方法		筆記試験（100点）			

(基礎分野)

授業科目	生涯発達心理学	講師	外部講師	実務経験	単位数
					1
授業の概要・学習目標	講義の概要・方針 看護はあらゆる発達段階の人を対象とする。人間の心のはたらきと行動について、各発達における特徴とともに、人間は常に発達している存在として、その連続性における発達の重要性をとらえる。また発達を促進する因子、阻害する因子を理解することにより、看護の機能としての発達への援助や発達課題をふまえたケアに生かすことができる。 ＜学習目標＞ 1. 人間の発達上の特徴，変化あるいは乗り越えなければならない課題や役割などを理解し，看護に活用する基礎を理解する。				時間数
					20
					学年
					1
					時期
					後期
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
10	1. 生涯発達心理学とは何か 2. 発達課題、葛藤とストレスの対処 3. 遺伝と環境 4. 愛着と親子関係 5. 遊びの発達 自己概念の発達 6. 意欲の発達 達成欲求テスト 7. 自己コントロールの発達 8. パーソナリティの発達 9. 知覚の発達 ことばの発達			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	外部講師
テキスト		講師作成資料を使用			
評価方法		筆記試験（100点）			

授業科目	キャリア論	講師	専任教員 外部講師	実務経験	単位数
				○	1
授業の概要・学習目標	看護職はその専門性から、一生学び続ける職業である。職場に適応し自分を追い込み過ぎず、必要な時は周囲の力をかり、少しでも気持ちを楽にしながら働き続けられることが必要となる。自己を分析し、自分が看護師として働くビジョンを描き、自分が働く姿をイメージする。また、働き続けるために必要となる様々な対処方法を学ぶために設定されている。 専門職業人としての専門性と社会性を理解し、基礎教育の段階から「働き続ける」ための“意識”と“スキル”を身に付けることを目標とする。			時間数	
				15	
				学年	
				3	
				時期	
				前期	
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1	1. キャリア論の趣旨と全体計画 2. カリキュラム水平軸 (ケアリング・社会人基礎力・主体的学習・チーム形成) 3. カリキュラム水平軸の評価			講義	専任教員
2	1. 看護部の組織を知る 2. 生活者としての看護師を知る			講義	外部講師 (看護部長) (中堅看護師)
3	1. キャリアデザイン あなたのなりたい看護師(20年先まで考えてみよう) 2. カリキュラム水平軸の評価			講義	専任教員
4	1. 職業人としての自己認識を理解する 2. 自己の傾向を知り、対策を検討する(自己分析) 3. ストレスマネジメント① (ストレス耐性・リフレーミング)			講義/演習	外部講師
5	1. 就職への認識を高め、国家試験と就職の関係を意識する 1)国家試験合格に向けて 2)合格を目指す意味 3)国家試験発表後の行動(就職するものとして)			講義	専任教員
6	1. 成長の軌跡 *領域別看護学実習すべてを終了しての看護観をまとめる 2. カリキュラム水平軸の評価			講義	専任教員
7	1. 就職後に自己がおかれる状況を認識し、具体的な対策を検討する 1年目の壁・リアリティショック 2. ストレスマネジメント② (ストレス耐性・リフレーミング) 現状の追跡			講義/演習	外部講師
8	1. 看護師として活躍する先輩の体験から学ぶ 1)講話 2)学びをまとめ冊子にする 2. カリキュラム水平軸の評価			講義	外部講師
使用テキスト		講師作成資料を使用			
評価方法		課題 (可否)			

※授業科目担当の専任教員は、病院で実務経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(基礎分野)

授業科目	体育	講師	外部講師	実務経験	単位数
					1
授業の概要・学習目標	講義の概要・方針 成長・発達している学生が、自己の体力の査定と健康の維持について学ぶ。 さらにチームで行う競技等を通して、協力や他人への配慮の大切さを体験を通して身に付ける。学生自らの心地よい体験を、看護の対象へと発展させることを期待する。 ＜学習目標＞ 1. 心身の発達と体力の維持増進を図ると同時に、スポーツの中のルールを通して、協調性を養うことができる。 2. リラクゼーションを体験することにより、心地よい体験が心や身体に影響し、健康維持につながることを理解する。				時間数
					20
					学年
					3
					時期
					前期・後期
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1 回 10	1. 体育実技 2. 体力アセスメント 3. リラクゼーション *ヨガなどを通して呼吸法を学ぶ			講義 実技	外部講師
テキスト		講師作成資料を使用する			
評価方法		課題レポート（100点）			

(基礎分野)

授業科目	文化芸術	講師	外部講師 専任教員	実務経験	単位数
					1
授業の概要・学習目標	講義の概要・方針 人間が行動を起こす上で大切なことは、知的能力と健康な心と身体、そして豊かな感性であるとする。日本の伝統文化に親しむことで、日本人のこまやかさやワビサビの世界を体験し、年々脆弱になっている「マナー、作法」を考える機会とする。また、音楽の持つ可能性を学生自身と看護へ活かすことを期待する。 <学習目標> 1. 日本の伝統文化、芸術に親しみ、豊かな感性を養う。 2. 校歌の歌詞を理解し、斉唱することで帰属意識を持ち、連帯感を高める。			時間数	
				15	
				学年	
				3	
				時期	
				前期	
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1 7	1. 日本の芸術に親しむ（歌舞伎の鑑賞） 2. 心を癒す音楽鑑賞（ミュージカル鑑賞） 3. 日本の音楽・日本の文化 4. 現代社会における音楽の機能と癒しとの関連			講義・鑑賞・演習	外部講師 専任教員
テキスト		講師作成資料を使用			
評価方法		課題（可否）			

(専門基礎分野)

授業科目	人間の体のしくみと働き	講師	外部講師	実務経験	単位数
					1
授業の概要・学習目標	講義の概要・方針 多数の細胞からなる有機的な個体としての人間は、発生・成長と発達・死の時間的経過の中で、常に外部環境の変化にさらされながら、内部環境の恒常性を保ちつつ個体として適応している。 人間のもつこれらの身体的機能が正常に働いている状態、あるいは身体機能が正常に働く能力について、生命活動や日常生活の視点からとらえることで、学習がより身近なものとなる。難しいイメージをなくし、興味関心が持てることでその後に学習する病態生理の理解へつながると考える。 <学習目標> 1. 人間の体のしくみや働きを理解し、生命活動や日常生活の視点からとらえることができる。				時間数
					15
					学年
					1
					時期
					前期
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1	1. 序章 人体の構造と機能を学ぶために 解剖生理学のための基礎知識 1) 構造からみた人体 (1) 人体の階層性 (2) 体表からみえる人体の部位 (3) 骨格による人体の区分 (4) 人体の内部にある腔所 (5) 方向と位置を示す用語 2) 人体の様々な器官 (1) 機能からみた人体と器官系 (2) 全身に広がる人体の器官 (3) 部位による人体の器官 3) 素材から見た人体 (1) 細胞の構造 (2) 細胞を構成する物質とエネルギーの生成 (3) 細胞膜の構造と機能 (4) 細胞の増殖と染色体 (5) 分化した細胞がつくる組織 (6) 腔所を包む組織			講義	外部講師
2					
3					
4・5					
6					
7					
テキスト		系統看護学講座 解剖生理学／医学書院			
評価方法		筆記試験(100点)			

(専門基礎分野)

授業科目	生命活動のしくみⅠ	講師	外部講師	実務経験	単位数
					1
授業の概要・学習目標	講義の概要・方針 人間のからだは外的環境の変化に対して反応し、生命状態を安定させる恒常性維持の機能を備えている。恒常性が維持されていれば人間のからだは代謝を続け、からだを作っている細胞一つひとつが機能し生命活動を維持することができる。 病名ひとつひとつを覚えるのではなく、上記のしくみが理解できることで、疾病の発生やその予防について理解することができる。 ＜学習目標＞ 内部環境の恒常性や日常生活行動すべてに関わる調節機構の基本的な仕組みを理解する。				時間数
					30
					学年
					1
					時期
					前期
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1	1. 栄養素の集荷・吸収 2. 肺機能とガス交換 3. 呼吸運動とその調節 4. 血液の性質と生理的役割 5. 心臓の拍動リズムとその調節 6. 血圧測定の意義と血液循環動態の把握 7. 腎機能と排泄のしくみ、体液の調節			講義	外部講師
)				講義	
				講義	
				講義	
				講義	
				講義	
15				講義	
テキスト	系統看護学講座 解剖生理学／医学書院				
評価方法	筆記試験(100点)				

(専門基礎分野)

授業科目	生命活動のしくみⅡ	講師	外部講師	実務経験	単位数
					1
授業の概要・学習目標	講義の概要・方針 人間のからだは外的環境の変化に対して反応し、生命状態を安定させる恒常性維持の機能を備えている。恒常性が維持されていれば人間のからだは代謝を続け、からだを作っている細胞一つひとつが機能し生命活動を維持することができる。 病名ひとつひとつを覚えるのではなく、上記のしくみが理解できることで、疾病の発生やその予防について理解することができる。 ＜学習目標＞ 1. 内部環境の恒常性や日常生活行動すべてに関わる調節機構の基本的な仕組みを理解する。			時間数	
				30	
				学年	
				1	
				時期	
				後期	
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1～3	1. 内蔵機能の調節—内分泌(ホルモン)			講義	外部講師
4	2. 骨格筋、心筋、平滑筋			講義	
5・6	3. 情報の受容と処理—神経・シナプスの生理と末梢神経の分類			講義	
7・8	4. 情報の受容と処理—中枢神経			講義	
9・10	5. 感覚器による情報の受容と中枢神経系による情報処理			講義	
11	6. 生体防御機構			講義	
12	7. 体温調節			講義	
13・14	8. まとめと総括課題			講義	
テキスト		系統看護学講座 解剖生理学／医学書院			
評価方法		筆記試験(100点)			

(専門基礎分野)

授業科目	日常生活のしくみⅠ	講師	外部講師	実務経験	単位数
					1
授業の概要・学習目標	講義の概要・方針 普段の生活の中で体を意識することは殆どない。息をすること、歩くことなど多くの場合、体のしくみを意識せずに生活している。日常生活の中では人と話をしたり、聞いたりしてコミュニケーションをとり、食事や排泄をしたり、動き回り、笑い、怒り、考え、朝覚め、眠っている。これらの日常生活行動の仕組みを科学的に理解することで、根拠に基づいた看護が実践できる。 さらに、看護は病気を持つ人だけを対象にするのではなく、正常に機能することを支援することも重要な看護の役割である。この学習を通してこのことに気づくことができる。 ＜学習目標＞ 何気なく行っている日常生活行動は人間が生命維持していく上で欠くことのできない一連の過程であることがわかり、これらの重要な営みの正常なメカニズムについて理解できる。				時間数
					30
					学年
					1
					時期
					前期
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1～3	1. 骨格系(身体の支持と運動) 1)総論、体幹骨 2)上肢骨、下肢骨 3)頭蓋骨 2. 筋系(身体の支持と運動) 1)総論、体幹筋 2)上肢筋 3)下肢筋、頭頸部の筋 3. 神経系(内臓機能の調節、情報の受容と処理) 1)総論 2)脳、脊髄 3)脳神経 4)脊髄神経、自律神経 4. 循環器系(血液の循環とその調節) 1)総論、心臓 2)動脈系 3)静脈系、リンパ 5. 体表解剖(体表からみた人体の構造)			講義	外部講師
4～6				講義	
7～10				講義	
11～13				講義	
14～15				講義	
テキスト		系統看護学講座 解剖生理学／医学書院			
評価方法		筆記試験(100点)			

(専門基礎分野)

授業科目	日常生活のしくみⅡ	講師	外部講師	実務経験	単位数
					1
授業の概要・学習目標	講義の概要・方針 普段の生活の中で体を意識することは殆どない。息をすること、歩くことなど多くの場合、体のしくみを意識せずに生活している。日常生活の中では人と話をしたり、聞いたりしてコミュニケーションをとり、食事や排泄をしたり、動き回り、笑い、怒り、考え、朝覚め、眠っている。これらの日常生活行動の仕組みを科学的に理解することで、根拠に基づいた看護が実践できる。 さらに、看護は病気を持つ人だけを対象にするのではなく、正常に機能することを支援することも重要な看護の役割である。この学習を通してこのことに気づくことができる。 ＜学習目標＞ 1. 何気なく行っている日常生活行動は人間が生命維持していく上で欠くことのできない一連の過程であることがわかり、これらの重要な営みの正常なメカニズムについて理解できる。				時間数
					30
					学年
					1
					時期
					後期
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1～4	1. 消化器系(栄養の消化と吸収) 1)総論、口、咽頭 2)食道、胃、小腸、大腸 3)膵臓、肝臓、胆嚢 4)腹膜 2. 呼吸器系(呼吸と血液のはたらき) 1)鼻腔、副鼻腔、喉頭 2)気管、気管支、肺、胸膜、縦隔 3. 泌尿器系(体液の調節と尿の生成) 1)腎臓 2)尿管、膀胱、尿道 4. 生殖器・内分泌系(内臓機能の調節、生殖・発生と老化のしくみ) 1)男性生殖器 2)女性生殖器 3)内分泌腺 5. 感覚器系(情報の受容と処理、外部環境からの防御) 1)皮膚 2)視覚器 3)平衡聴覚器			講義	外部講師
5・6				講義	
7・8				講義	
9～11				講義	
12～14				講義	
15	6. 総括			講義	
テキスト		系統看護学講座 解剖生理学／医学書院			
評価方法		筆記試験(100点)			

(専門基礎分野)

授業科目	栄養生化学	講師	外部講師	実務経験	単位数
					1
授業の概要・学習目標	講義の概要・方針 人間の身体を構成し、生命維持するために必要な栄養素とその適用量、合理的な摂取法について学ぶことにより、健康的な生活、日常生活における食事への援助や、疾病回復における食事療法時の看護へ発展できる。 ＜学習目標＞ 1. 食物がどのように消化されて吸収され、体内でいかに代謝されるかを学び、栄養状態の正常と異常を理解する。				時間数
					30
					学年
					1
					時期
					後期
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1	1. ガイダンス 栄養学と生化学 「栄養」について			講義	外部講師
2	2. ヒトと食べ物			講義	
3・4	3. 糖質の栄養生化学			講義	
5・6	4. 脂質の栄養生化学			講義	
7～9	5. アミノ酸・たんぱく質の栄養生化学(アミノ酸・たんぱく質とヒト)			講義	
10	6. ビタミンの栄養生化学(ビタミンとヒト) 無機質の栄養生化学(無機質とヒト)			講義	
11	7. エネルギー代謝の栄養生化学			講義	
12	8. 栄養ケア・マネジメント			講義	
13・14	9. ライフステージの栄養補給			講義	
15	10. 栄養療法			講義	
テキスト		栄養生化学／医学書院			
評価方法		筆記試験(70点)、 課題(20点)、 受講態度(授業に臨む姿勢と態度、課題への取り組み、コミュニケーションカード)(10点)			

(専門基礎分野)

授業科目	臨床判断の基礎	講師	外部講師	実務経験	単位数
				○	1
授業の概要・学習目標	講義の概要・方針 在院日数の短縮に伴い、医療機関の一般病床が急性期医療中心となっている。同時に、急性期以外は、中間施設や在宅療養で支援する傾向が強まっている。このような傾向のなかで、どのような状態であっても、看護師は地域包括支援チームの構成メンバーとして、多くの職種と協働し、クライアントの最適な状況に向けて中心的な役割を果たすことが期待されている。 多職種で構成されたチームの中で役割を果たすために必要な能力の1つとして「臨床判断能力」が示されている。特に医療施設外で、看護師が一人で様々なことを的確に判断する機会がこれまで以上に増えることは容易に予測されることから「臨床判断」の基本的な能力を育成し、臨地実習における実証的な経験を積み重ねたうえで卒業できるようにする。 <学習目標> 1. 人体の構造と働きを統合し、「息をする」「食べて排泄する」など代表的な事柄を関連づけ、「日常生活援助」を思考することができる。			時間数	
				15	
				学年	
				1	
				時期	
				後期	
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1	1. 臨床判断能力が求められる背景、看護師の役割			講義 ワーク	外部講師
2	2. 人体の作りと機能の統合、日常生活援助との関連			講義 ワーク	
7	3. 体と生活構造の実際 演習：「解体案内書の作成とプレゼン」			講義 演習 ワーク	
テキスト		講師作成資料を使用			
評価方法		筆記試験(100点)			

※授業科目担当の講師は、病院で成人・老年看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(専門基礎分野)

授業科目	基礎薬理学	講師	外部講師	実務経験	単位数
					1
授業の概要・学習目標	重要な治療法のひとつとである薬物療法において、看護のはたす役割は大きい。診療に伴う看護技術としての与薬を安全で効果的なものとするために重要な知識である。 薬とはどのようなものか、医薬品の管理、人間の生理機能と薬物の作用機序、機能障害の改善を図るための薬物の知識、事故防止のための知識を主に学習し、臨床薬理学を学ぶ上での基礎とする この単位では、疾病からの回復の促進と患者の安全を守るために必要な基礎的知識及び薬物療法における留意事項を理解する。さらに病態生理から見た臨床薬の使い方について理解することを目標とする。			時間数	
				1 5	
				学年	
				2	
				時期	
				前期～	
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1	薬理学総論 1.薬とはどのようなものか 2.薬理作用 3.薬効に影響を及ぼす要因 4.薬の有害作用 5.薬の適用 6.各種製剤 薬理学各論 1.抗感染症薬・消毒薬 2.免疫治療薬 3.アレルギーに対する薬物 4.炎症に対する薬物 5.血液および造血器官に作用する薬物 6.循環器に作用する薬物 7.呼吸器に作用する薬物 8.消化器に作用する薬物 9.物質代謝に作用する薬物 10.内分泌に作用する薬物 11.中枢神経系に作用する薬物 12.麻酔薬 13.抗がん剤 14.特殊な薬 15.救急の際に使用される薬物			講義	外部講師
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
テキスト		医学書院／薬理学 メディカ出版／イメージできる臨床薬理学			
評価方法		筆記試験（100点）			

(専門基礎分野)

授業科目	臨床薬理学	講師	外部講師	実務経験	単位数
					1
授業の概要・学習目標	在宅においては対象者の状況を判断し、包括的指示のもとに看護師が与薬を行うことができる。そのためには、各薬物の主作用、副作用について学び、より深い知識を得ることが大切である。 基礎薬理学で学んだこと及び臨地実習の体験を踏まえ、治療効果を高め、安全で安楽な薬物治療のための看護の役割を認識できる。 この単元では、基礎薬理学で学んだ知識を基に、各疾病に対する診療ガイドラインも参考にしながら主要な薬物について理解することを目標とする。			時間数	
				15	
				学年	
				3	
				時期	
				後期	
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1	総論 注射薬の基礎知識 各論 1. 抗生剤 2. 抗がん剤（外来化学療法） 3. 麻酔剤 4. 循環器薬 5. 高カロリー輸液 6. インスリン製剤 7. 麻薬（がん性疼痛緩和） 8. その他 医薬品情報の読み方 約束処方			講義 ・ 演習 講義	外部講師
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
テキスト		講師作成資料			
評価方法		課題（可否）			

(専門基礎分野)

授業科目	病態生理学総論	講師	外部講師	実務経験	単位数
					1
授業の概要・学習目標	疾病を現象的・分析的に理解したうえで人間を生活者として全人的にみつめ、疾病からの回復を促進させる看護の専門性を理解するうえで重要な専門的な基礎知識である。 この單元では、疾病の原因や発生病理のメカニズム及び、形態・機能の変化とその原理について理解することを目標とする。			時間数	
				30	
				学年	
				1	
				時期	
				後期	
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1 2 3 4 5 6 7 8・9 10・11 12 13 14 15	1. 疾病の成り立ちと病因 2. 退行性病変 3 .肥大と仮形成 4. 再生と修復 5. 代謝異常 6. 循環障害 7. 炎症 8. 免疫反応とアレルギー 9 腫瘍 10. 先天異常 11. 老化 12. 生体と微生物 13. 感染と発病			講義	外部講師
テキスト		メディカ出版／疾病の成り立ちと回復の促進			
評価方法		筆記試験（100点）			

(専門基礎分野)

授業科目	診断治療学総論	講師	外部講師	実務経験	単位数
					1
授業の概要・学習目標	各療法の原理や方法について学び、疾病からの回復を促進させる看護の役割につなげることができる。 この單元では、主な診断と治療法について理解することを目標とする。			時間数	
				30	
				学年	
				1	
				時期	
				後期	
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1・2 3・4 5	1. 診断の進め方、検査の進め方と各種検査法 2. 薬物療法 3. 食事療法 4. 運動療法 5. リハビリテーション療法			講義	外部講師
6・7 8・9 10	6. 放射線療法			講義	外部講師
11 12 13	7. 手術療法			講義	外部講師
14 15	8. 麻酔療法			講義	外部講師
テキスト		メジカルフレンド社／治療法概説 医学書院／臨床外科看護総論			
評価方法		筆記試験（100点）			

(専門基礎分野)

授業科目	神経・精神機能の病態生理治療学	講師	外部講師	実務経験	単位数
					1
授業の概要・学習目標	看護する上で知っておく必要のある神経・精神機能障害の発生原因と機序、症状・病態・診断と治療について学ぶ。 この単元では、脳神経・精神障害の原因、構造、経過と診断過程および治療について理解し、対象の生活と疾病の成り立ちについて理解できることを目標とする。				時間数
					30
					学年
					2
					時期
					前期
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1	I 脳神経 1. 脳・神経系の構造と機能 2. 症状とその病態整理 3. 検査・診断・治療・処置 4. 疾患の理解と診療（診断治療） 1) 脳血管障害（脳内出血、くも膜下出血、脳梗塞、もやもや病） 2) 頭蓋内圧亢進症 3) 変性疾患（パーキンソン病）、筋委縮性側索硬化症 4) 脱髄疾患（多発性硬化症 5) 認知症（アルツハイマー病、血管性認知症、レビー小体型認知症） 6) 感染症（農園、髄膜炎） 7) 頭部外傷 8) 脊髄損傷 9) 機能性疾患（てんかん） 10) 腫瘍（脳腫瘍） II 精神 1. 精神の構造と機能 2. 症状とその病態整理 3. 検査・診断・治療・処置 4. 疾患の理解と診療（診断治療） 1) 症状性を含む器質性精神障害（アルツハイマー病、血管性認知症、レビー小体型認知症）、せん妄 2) 精神作用物質使用による精神・行動の異常（アルコール依存症、覚せい剤・大麻精神病） 3) 統合失調症 4) 気分＜感情＞障害（うつ病、双極性障害） 5) 神経症性障害、ストレス関連障害（パニック障害、心的外傷後ストレス障害、適応障害） 6) 生理的障害、身体的要因に関連した精神障害又は行動症候群（摂食障害、不眠症、ナルコレプシー、睡眠時無呼吸症候群） 7) 小児・青年期の精神・心身医学的疾患、成人の人格・行動障害）			講義	外部講師
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
6・7				講義・演習	外部講師
8・9					
10					
11				講義	外部講師
12					
13					
14					
15					
テキスト		医学書院／精神看護の基礎、精神看護の展開 医学書院／脳神経			
評価方法		筆記試験（100点）			

(専門基礎分野)

授業科目	呼吸・循環・造血機能の病態生理治療学	講師	外部講師	実務経験	単位数
					1
授業の概要・学習目標	看護する上で知っておく必要のある呼吸・循環・造血機能障害の発生原因と機序、症状・病態・診断と治療について学ぶ。 この単元では、呼吸・循環・造血機能障害の原因、構造、経過と診断過程および治療について理解し、対象の生活と疾病の成り立ちについて理解できることを目標とする。			時間数	
				30	
				学年	
				2	
				時期	
				前期	
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1 ～ 5	I 呼吸 1.呼吸器系の構造と機能				

(専門基礎分野)

授業科目	栄養摂取吸収・排泄機能の病態生理治療学	講師	外部講師	実務経験	単位数			
					1			
授業の概要・学習目標	看護する上で知っておく必要のある栄養摂取・吸収・排泄器の機能障害の発生原因と機序、症状・病態・診断と治療について学ぶ。 この単元では、消化機能・口腔歯牙・排泄機能障害の原因、構造、経過と診断過程および治療について理解し、対象の生活と疾病の成り立ちについて理解できることを目標とする。			時間数				
				30				
				学年				
				2				
				時期				
				前期				
回数	学 習 内 容			授業方法	講師			
1 ～ 7	I 消化器 1.消化器系の構造と機能 2.症状とその病態生理 3.検査・診断・治療・処置 4.疾患の理解と診療（診断治療） 上部消化管 1) 炎症性疾患（逆流性食道炎、急性胃炎、慢性胃炎、ヘリコバクターピロリ感染症） 2)潰瘍性疾患(胃潰瘍、十二指腸潰瘍) 3) 腫瘍（食道癌、胃癌） 下部消化管 1) 炎症性疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病、虫垂炎、痔瘻） 2) イレウス 3) 腫瘍（大腸ポリープ、結腸癌、直腸癌） 4) 排便障害（便秘、下痢） 肝胆膵 1) 炎症性疾患（肝炎、胆管炎、膵炎） 2) 肝硬変 3) 腫瘍（肝癌、胆嚢癌、胆管癌、膵癌） 4) 脂肪肝、アルコール性肝炎 5) 胆石症 腹壁・腹膜・横隔膜 1) 鼠径ヘルニア 2) 腹膜炎 3) 横隔膜ヘルニア、吃逆 II 口腔・歯牙 1.口腔・歯牙の構造と機能 2.症状とその病態生理 3.検査・診断・治療・処置 4.疾患の理解と診療（診断治療） 1) う歯、歯周病 2)腫瘍(舌癌) III排泄機能 1.泌尿器系の構造と機能 2.症状とその病態生理 3.検査・診断・治療・処置 4.疾患の理解と診療（診断治療） 1) 腎炎、慢性腎臓病 2) 炎症性疾患(腎盂腎炎、膀胱炎) 3) 腫瘍(腎癌、尿管癌、膀胱癌) 4) 腎・尿路結石 5)排尿障害（過活動膀胱、腹圧性尿失禁、夜尿症） 6) 腎不全			講義	医師			
8 ～ 9				講義	外部講師			
10 ～ 15				講義	外部講師			
テキスト				医学書院／消化器	医学書院／口腔歯牙	医学書院／腎・泌尿器		
評価方法				筆記試験（100点）				

(専門基礎分野)

授業科目	感覚機能の病態生理治療学	講師	外部講師	実務経験	単位数
					1
授業の概要・学習目標	看護する上で知っておく必要のある感覚機能障害の発生原因と機序、症状・病態・診断と治療について学ぶ。 この単元では、感覚器障害の原因、構造、経過と診断過程および治療について理解し、対象の生活と疾病の成り立ちについて理解できることを目標とする。			時間数	
				1 5	
				学年	
				2	
				時期	
				前期	
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1	I. 皮膚感覚 1.皮膚の構造と機能 2.症状とその病態生理 3.検査・診断・治療・処置 4.疾患の理解と診療（診断治療） 1) 表在性皮膚疾患 2) 真皮・皮膚脂肪組織および皮膚付属器の疾患 3) 脈管系の皮膚疾患 4) 物理・化学的皮膚障害 5) 腫瘍および色素異常症 6) 微生物・動物が関与する疾患 7) 内臓疾患に伴う皮膚病変 II. 視覚 1.視覚の構造と機能 2.症状とその病態生理 3.検査・診断・治療・処置 4.疾患の理解と診療（診断治療） 5.疾患の理解 1) 視覚障害（白内障、緑内障、網膜剥離、網膜症 III. 聴覚・嗅覚・味覚 1.聴覚・嗅覚・味覚の構造と機能 2.症状とその病態生理 3.検査・診断・治療・処置 4.疾患の理解と診療（診断治療） 1) 聴覚障害（難聴耳疾患、メニエール病） 2) 嗅覚・味覚障害			講義	外部講師
2				講義	外部講師
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
テキスト					
評価方法		筆記試験（100点）			

(専門基礎分野)

授業科目	内部環境・生命の連続性・運動機能の病態生理治療学	講師	外部講師	実務経験	単位数
					1
授業の概要・学習目標	看護する上で知っておく必要のある内部環境・生命の連続性・運動機能障害の発生原因と機序、症状・病態・診断と治療について学ぶ。 この単元では、内分泌・代謝・女性生殖器・運動器障害の原因、構造、経過と診断過程および治療について理解し、対象の生活と疾病の成り立ちについて理解できることを目標とする。				時間数
					30
					学年
					2
					時期
					前期
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1 ～ 5	I 内分泌・代謝 1 内分泌・代謝系の構造と機能 2.症状とその病態生理 3.検査・診断・治療・処置 4.疾患の理解と診療（診断治療） 内分泌 1) 間脳・下垂体疾患 2) 甲状腺疾患（甲状腺機能亢進症、甲状腺以降低下症、甲状腺炎） 3) 副甲状腺疾患 4) 副腎皮質・髄質疾患 5) 腫瘍 （下垂体腫瘍、甲状腺癌） 代謝 1) メタボリックシンドローム、肥満症 2) 糖尿病 3) 脂質異常症 4) 高尿酸血症、痛風 5) ビタミン欠乏症 体液調節 1) 水・電解質の異常（脱水、浮腫、低ナトリウム血症、高カリウム血 2) 酸塩基平衡の異常（アシドーシス、アルカローシス）			講義	外部講師
6 ～ 10	II 生命の連続性 1.生殖器系の構造と機能 2.症状とその病態生理 3.検査・診断・治療・処置 4.疾患の理解と診療（診断治療） 1) 女性生殖器の疾患(子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣嚢腫) 2) 乳腺の疾患（乳腺炎、乳腺症） 3) 男性生殖器の疾患(前立腺炎、前立腺肥大) 4) 腫瘍（乳癌、子宮体癌、子宮頸癌、卵巣癌、前立腺癌） 5) 生殖機能障害(月経異常、更年期障害)			講義	外部講師
11 ～ 15	III 運動器 1.運動器系の構造と機能 2.症状とその病態生理 3.検査・診断・治療・処置 4.疾患の理解と診療（診断治療） 1) 骨折、脱臼、捻挫 2) 骨粗鬆症 3) 腫瘍(骨肉腫) 4) 変形性関節症 5) 腰椎症(椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症) 6) 炎症性疾患(骨・骨髄)炎、関節炎) 7) 筋ジストロフィー 8) 重症筋無力症			講義	外部講師
テキスト	医学書院／内分泌・代謝 医学書院／女性生殖器 医学書院／運動器				
評価方法	筆記試験（100点）				

(専門基礎分野)

授業科目	感染・免疫生体防御機能の病態生理治療学	講師	外部講師	実務経験	単位数
					1
授業の概要・学習目標	看護する上で知っておく必要のある感染・免疫生体防御機能の障害発生原因と機序、症状・病態・診断と治療について学ぶ。 この單元では、感染・免疫機能障害の原因、構造、経過と診断過程および治療について理解し、対象の生活と疾病の成り立ちについて理解できることを目標とする。				時間数
					30
					学年
					1
					時期
					後期
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1 ～ 10	I 感染・アレルギー（微生物学） 1.感染・アレルギーの構造と機能 2.症状とその病態生理 3.検査・診断・治療・処置 4.疾患の理解と診療（診断治療） 1) 結核 2) ヒト免疫不全ウイルス感染症、後天的免疫不全症候群 3) 新型インフルエンザ 4) 薬剤耐性菌感染症 5) 人獣共通感染症 6) 花粉症（アレルギー性鼻炎） 7) 蕁麻疹 8) 接触皮膚炎 9) アナフィラキシーショック II 免疫 1.免疫の造と機能 2.症状とその病態生理 3.検査・診断・治療・処置 4.疾患の理解と診療（診断治療） 1) 全身性エリテマトーデス 2) 関節リウマチ 3) シェーグレン症候群 4) ヒト免疫不全ウイルス感染症			講義	外部講師
11 ～ 15				講義	外部講師
テキスト		医学書院／微生物 医学書院／アレルギー・感染			
評価方法		筆記試験（100点）			

(専門基礎分野)

授業科目	小児期の疾患の病態生理治療学	講師	外部講師	実務経験	単位数
					1
授業の概要・学習目標	先天性疾患や感染症など、小児に罹患しやすい疾患は、成人期の疾患と異なる特徴を持つことが多い。 この単元では、小児の身体的特徴と関連付けて、症状・検査・治療を理解することを目標とする。 さらに小児に特徴的な疾患と先天性疾患を理解することを目標とする。				時間数
					20
					学年
					2
					時期
					前期
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1 ～ 8	1. 小児に特有な疾患の理解 1) 成長発達と事故 2) 先天異常と遺伝子異常、新生児 3) 免疫、アレルギー性疾患、感染症 4) 呼吸器疾患、循環器疾患、腎疾患、消化器疾患 5) 血液疾患、悪性新生物 6) 神経・筋疾患、精神疾患 2. 特例な状況にある子どもと家族 1) 虐待 2) 災害			講義	外部講師
9 10				講義	外部講師
テキスト		医学書院／小児看護学各論			
評価方法		筆記試験（100点）			

(専門基礎分野)

授業科目	保健医療福祉論	講師	外部講師	実務経験	単位数
					1
授業の概要・学習目標	近年大幅な医療制度改革や社会福祉制度改革が行われ、保健医療領域における国民の健康と文化的な生活を保障するための政策やサービス実践が新たな展開として模索されている。 日本における保健医療福祉の仕組みを理解し、保健医療福祉が社会に果たしている役割及び現代の保健医療福祉の抱える問題点とその発生の背景を知り、看護職として社会に貢献する方向性と視点について学ぶ。 この單元では、保健医療福祉の基本的な視点を学び、生活者が、健康な生活を確保するために、用意されている社会保障制度としての法律や専門的・技術的・行政的サービスについて理解することを目標とする。			時間数	
				30	
				学年	
				1	
				時期	
				後期	
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12・13 14 15	1. 保健医療福祉の概念 2. 保健医療政策、社会福祉政策の変遷 3. 保健医療福祉と看護の歴史 4. 保健医療福祉における権利擁護実践とプライバシー 5. 保健医療福祉アセスメントや社会資源の活用、関係職種等の連携 6. ライフサイクルと保健医療福祉 7. 母子と保健医療福祉 8. 障害者と保健医療福祉 9. 高齢者と保健医療福祉 10. 難病と保健医療福祉 11. 保健医療福祉と家族問題 12. 健康問題と生活上の諸問題 13. 保健領域と地域における看護 14. 病院経営と医療			講義	外部講師
テキスト		医学書院／社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度			
評価方法		筆記試験（100点）			

(専門基礎分野)

授業科目	公衆衛生学	講師	外部講師	実務経験	単位数
					1
授業の概要・学習目標	公衆衛生学は、社会に生きる様々な人々の健康問題を、集団という視点から理解し、その解決法を図る学問分野である。人間を性、年齢、疾病、ライフサイクルやライフスタイルなどの次元別に捉え、地域や学校、職場などの各人が所属する集団ごとに把握し、アプローチする。さらには保健学、健康科学のもっとも重要な原点のひとつともいえる。 この單元では、環境・個人衛生・疫学・衛生統計などの公衆衛生の基本内容と生活者の健康増進、疾病予防とともに、疾病構造の変化や少子・高齢に伴う社会に対応した法制度および保健活動の進め方について理解することを目標とする。				時間数
					30
					学年
					2
					時期
					後期
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1・2	1. 公衆衛生の概要と人口 2. 疾病構造と人口動態 3. 環境保健 4. 疫学 5. 感染対策 6. 産業保健 7. 精神保健 8. 公衆衛生活動と健康教育 9. 老人保健・保険制度			講義	外部講師
3・4					
5・6					
7・8					
9・10					
11					
12					
13・14					
15					
テキスト	南江堂／シンプル公衆衛生学 国民衛生の動向				
評価方法	筆記試験（100点）				

(専門基礎分野)

授業科目	健康科学	講師	外部講師	実務経験	単位数
				○	1
授業の概要・学習目標	人々の健康の状態および保健の動向と看護の関係について学び、健康管理の理論と基本的方法について理解できる。 この単元では、人間の生活と健康を総合科学的な視点から学び、健康についての概念を理解できることを目標とする。				時間数
					30
					学年
					1
					時期
					前期
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1・2 3・4 5・6 7 8・9 10・11	1. 健康の概念 2. 健康の指標 3. ライフサイクルと健康 4. 障害児・障害者の健康 5. 倫理と健康			講義	外部講師
12・13				講義	
14・15				講義	
				講義	
テキスト		講師作成資料			
評価方法		試験（100点）			

※授業科目担当の講師は、病院での豊富な経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(専門基礎分野)

授業科目	医療と経済	講師	外部講師	実務経験	単位数
				○	1
授業の概要・学習目標	日本における医療制度特に診療報酬体系の理解は、医療・看護を進めていく上で大切である。適切にサービスが行われているか、医療および看護が適切に評価されているか、職業人として常に認識しておく必要があることから、医療制度の問題点についても考える。 この単元では、日本の医療制度と医療経済について理解することを目標とする。			時間数	
				15	
				学年	
				3	
				時期	
				後期	
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1	1. 日本の医療制度			講義	外部講師
2・3	2. 診療報酬体系のしくみ				
4・5	3. 患者にとっての医療費の負担				
6・7	4. 医療問題				
テキスト		メディカ出版／看護管理			
評価方法		筆記試験（100点）			

※授業科目担当の講師は、病院での看護部長等の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(専門基礎分野)

授業科目	医療と法律	講師	外部講師	実務経験	単位数
					1
授業の概要・学習目標	国民の健康に携わる国家免許を有する看護職者として、社会的使命を果たすことができるための基本的な法律について学習する。また看護師として業務に携わる時に必要な内容だけでなく、看護師国家試験受験資格の要件である『実習』等に関することも含め、看護学生と法律との関係も学ぶ。 この単位では、看護の対象である人々の権利に関わる問題と、専門職として看護業務を行う上で直面する法的問題について学ぶ。 また、健康な生活を確保するために用意されている社会保障制度としての法律や専門的・技術的・行政的サービスについて理解することを目標とする。			時間数	
				1 5	
				学年	
				1	
				時期	
				後期	
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1	1. 法の理解 2. 看護と医療 1) 医療の意義 2) 医療従事者 3. 患者と人権 1) 看護と法 2) 法と倫理 3) 憲法 4. 基本的人権 5) 医療と基本的人権 6) 医療における自己決定権 7) プライバシーの権利 4. 看護師と法的責任 1) 医療事故と看護師の法的責任 2) 医療事故とは 3) 医療事故の現在の状況 4) 事故の法的責任 5) 事故例 5. 個人情報保護法 1) 個人情報保護法 2) 個人情報に関係するもの 3) 個人情報保護法と厚生労働省ガイドライン概要 4) 実習記録と個人情報			講義	外部講師
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
テキスト		医介法支ネット／看護学生のための法学			
評価方法		筆記試験（100 点）			

(専門基礎分野)

授業科目	看護職と関係法規	講師	専任教員	実務経験	単位数
				○	1
授業の概要・学習目標	看護の対象者のニーズを踏まえ、対象個々の健康問題を解決するには、多くの医療従事者との協働連携が重要となる。この単元では、他職種に関する法律を学びその役割を理解すると共に、看護の独自の役割機能を新ためて確認することを目標とする。 看また、護職者は職場においては労働者であり、また働くものの健康を守る立場にあることから、そのことに関する法律について理解することを目標とする。			時間数	
				1 5	
				学年	
				3	
				時期	
				後期	
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1	1. 看護職に関する法律 1) 保健師助産師看護師法 2) 看護師等の人材確保の促進に関する法律 2. 労働に関する法律 1) 労働基準法 2) 労働条件の原則 3) 育児休業・介護休業等育児または家族介護を行う労働者の福祉に関する法律（育児・介護休業法） 3. 医療や社会福祉関連職種に関する法律 1) 医療法 2) 医師法 3) 歯科医師法 4) 薬剤師法 5) 診療放射線技師法 6) 臨床検査技師、衛生検査技師等に関する法律 7) 理学療法士及び作業療法士法、言語聴覚士法 8) 社会福祉士及び介護福祉士法、精神保健福祉士法 9) 栄養士法			講義	専任教員
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
テキスト					
評価方法		筆記試験（100 点）			

※授業科目担当の講師は、病院で成人・老年の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(専門分野)

授業科目	看護学概論	講師	専任教員	実務経験	単位数	
				○	1	
授業の概要・学習目標	この單元では、看護の対象である人間について多面的に捉えるための学習をする。医療的な捉え方だけではなく、人間の様々な面に理解を深めて、「人間の生命や健康、生活にとっての看護の在り方」を考察できることを目標とする。 また看護の提供のしくみについて学習し、医療安全と医療の質保証を重視した「サービスとしての看護」について考えると共に、地域包括ケアの基本的な考え方、それに伴う「他職種との協働」を看護の専門性・独自性・倫理性から学ぶ。 さらに、看護技術の基盤になる考え方を学ぶ。対象個々に応じた『看護技術』の習得に必要な学問領域と、人間としての成熟、積み重ね、など、後に学習する基礎看護技術の基本となる概念と臨床判断について学習し、個別理解へ発展させることを目標とする。				時間数	
					30	
					学年	
					1	
					時期	
					前期	
回数	学 習 内 容			授業方法	講師	
1	1. 看護とは何か 1) 看護の原点 2) 看護の変遷 ※ナイチンゲールの前後			講義	専任教員	
2	2. 看護の定義 1) 海外と日本 2) 理論家による定義 ※ヘンダーソンを中心に			講義		
3	3. 看護師の資格と養成に関わる制度 1) 看護職の資格の違い※法律を中心に 2) 看護職の課題			講義		
4	4. 看護師の業務 1) 法律から 2) 医師、他職種との違い 3) 地域包括ケアにおいて			講義		
5・6	5. 看護技術とは 1) 看護の専門性と看護技術 2) 看護実践過程と看護技術 3) 看護技術の質（経済性・安全性） 4) ケアに伴う臨床判断			講義／演習		
7～9	6. ケアリング 1) ケアの概念 2) 看護ケアの概念 3) 看護ケアの本質			講義／演習		
10	7. 職業としての看護 1) 看護職者の教育 2) キャリア開発			講義		
11	8. 職業倫理と看護倫理 1) 職業倫理としての看護倫理 2) 患者の権利擁護			講義		
12～15	9. 看護の提供システム さまざまな場における看護の提供システム／他職種連携			講義／演習		
使用テキスト		1. 医学書院／看護学概論 2. 照林社／よくわかる看護職の倫理綱領 第3版 3. 日本看護協会出版会／看護の基本となるもの				
評価方法		筆記試験(100点)				

※授業科目担当の講師は、病院で成人・老年看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(専門分野)

授業科目	看護理論の探究	講師	外部講師	実務経験	単位数
				○	1
授業の概要・学習目標	【講義のねらい】 先達の理論家の考えに触れ深く読み解き、今後の臨地実習に活用し、自己の看護観を養い、他者へ表現して伝える土台を形成する。 個の単元の目標は以下5つである。 1. 看護理論として代表的な「ナイチンゲール」「ヘンダーソン」などの著書を読み解き、理論家の考えを比較しながら、現代の看護との関連を理解する。 2. 理論に対する自己の考えと他者の考えと併せ、捉え方の多様性と共通性につく。 3. グループで課題を追究し、一方向へと意見をまとめるプロセスを学ぶ。 4. 「理論を解釈し、言動で表現する」という体験を通し、考えと現象的な言動との関連性を理解する。 5. グループワークと発表を通し、建設的な意見交換や他者への効果的な講評を学ぶ。			時間数	
				15	
				学年	
				1	
				時期	
				後期	
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1 2 3・4 5・6 7	1. 抄読会ガイダンス 2. 抄読1 フローレンス・ナイチンゲール「看護覚書」 ジーン・ワトソン「ワトソン看護論」 3. 抄読2 ヴァージニア・ヘンダーソン「看護の基本となるもの」 1) 「はじめに」を全員で抄読 2) グループ演習（抄読と全体の意見交換） Ⅰ章「看護師の独自の機能すなわち基本的看護ケア」 Ⅱ章「人間の基本的欲求および基本的看護との関係」 Ⅲ章「基本的看護ケアを行うにあたって考慮すべき患者の状態」 4. 課題の追究（提示された題材からグループで1つを選択） 5. 読み解きから表現へ（プレゼン） ～私たちが読み取った「ヘンダーソン理論」～ 1) 発表 2) 質疑応答・意見交換 3) 講評			講義・演習 <	

※授業科目担当の講師は、病院で成人・老年看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(専門分野)

授業科目	情報を共有する技術	講師	外部講師	実務経験	単位数			
				○	1			
授業の概要・学習目標	対象の状況に相応しい看護を展開するには、第一段階として、看護が必要なその状況に気づき情報として捉える必要がある。その情報を集めて対象を理解し、状況判断（臨床判断）を経て適切な援助を提供（計画・実践・評価）するという段階へ発展する。 本單元では、対象を理解するための情報の種類と収集方法、情報共有の基礎を学ぶ。また、状況に対する「気づき」は、専門領域の知識・経験と対象への責任・興味から生じるものとされている。まずは事例の状況を理解するために必要な「情報の選択」と「一般基準（既習を活かす）との比較」を実際に行い、基礎看護学〔援助技術〕と後に学習する〔看護過程〕と臨地実習に活かせる「気づき・判断」の能力を身につける。看護における情報は専門職者間で共有されながら活かされている。上記の教育内容の他、共有する方法としての情報交換・記録・報告などを学習し、演習することで実践力の基盤づくりを目指す。			時間数				
				30				
				学年				
				1				
				時期				
				後期				
回数	学 習 内 容			授業方法	講師			
1	1. 情報収集と情報の判断 1) 看護における情報の意義 （1）看護を提供するための情報：状況判断から実践における意味 （2）対象を理解・把握するための情報視点：事実に基づく情報の重要性 ①発達段階に伴う情報 ②文化的背景に伴う情報 ③健康状態に伴う情報 2) 情報の種類と内容：系統別に基づくカテゴリー （1）一般状態 （2）生命兆候：バイタルサイン （3）栄養状態・消化吸収 （4）活動と休息 （5）知覚/認知 （6）排泄状態 （7）社会的役割 3) 情報収集の手段と方法 （1）観察 （2）問診 （3）聴診 （4）測定 （5）記録物 4) 状況把握に必要な情報収集の実際：状況を読み取るための情報選択 臨床判断の基本的な考え方と実践的な思考 5) フィジカルアセスメントの実際：観察、検査の結果と判断 2. 保健医療福祉における情報活用／地域包括ケアにおける看護師の役割から 1) 保健医療福祉における情報の意義 2) 活用・共有に適する情報：専門職種間に有効な情報と活用方法 （1）記録 （2）報告 （3）情報交換 （4）相談 （5）交渉 3) 情報に関する倫理的配慮：診療記録(文書)における法的責任、個人情報保護 4) 情報共有の実際：事例における状況で「誰に」「何を」伝えるかを判断			講義	外部講師			
2～4				講義				
5・6				講義 演習				
7								
8・9				講義 演習				
10～14				講義				
15				講義				
テキスト				医学書院／基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ				
評価方法				筆記試験（60点） 課題レポート(40点)				

※授業科目担当の講師は、病院で成人・老年看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(専門分野)

授業科目	安全管理技術	講師	専任教員	実務経験	単位数
				○	1
授業の概要・学習目標	安全な状態であることを願うのは、人間の持っている最も基本的なニーズである。この「安全」の欲求が阻害されることは、生命を脅かすことにつながる。患者の安全を守ることは、看護の基本的要素の1つである。 健康であれば、体調を整えたり、危険を避けたり、環境を変えて安全を確保することができる。しかし、看護援助の対象となる人々は、自らの安全を確保することが困難な状況にある場合が多い。臨床の場に潜む危険因子の存在を理解し、安全を守るための技術が確実に実践できることは看護者にとって必要不可欠である。 本単元では、衛生的かつ安全に快適な療養生活を送ることの重要性を理解し、事故及び感染を予防するために必要な知識と技術を習得することを目標とする。				時間数
					30
					学年
					1
					時期
					後期
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1～15	1. 感染予防の意義と原則 1)感染予防の基礎知識 2)感染を成立させる要素と成立過程 3)感染を防止するためのプロセス 4)感染予防における看護師の責務と役割 2. 感染予防のための技術 1)手指衛生（手洗い、手指消毒） 2)個人防護用具の使用 3)患者ケアに使用した器材などの取扱い 4)環境対策 3. 感染予防技術の実際 1)手指衛生 2)個人防護用具の着脱 3)医療廃棄物の処理 4. 施設における感染予防 1)標準予防策 2)感染経路別予防策 5. 無菌操作と滅菌物の取り扱い 1)洗浄・消毒・滅菌 2)滅菌物の取扱い 6. 感染予防技術の実際：無菌操作 ※技術試験「無菌操作の技術の実践」 7. 看護にとっての安全の意義 1)看護における安全 2)看護師の役割 3)ケアの場面における安全確保 8. 事故発生のメカニズム 1)ヒューマンエラー 2)人間特性 3)環境 9. 事故の実態と医療安全 1)看護師の法的規定 2)医療安全に関する用語 3)安全管理対策 10. 事故防止の対策 1)事故分析 2)医療機関における安全対策 3)事故場面の検証 11. 組織としての安全管理対策 1)看護における安全対策 2)医療事故の種類と安全対策 12. ガウンテクニック 13. ガウンテクニックの演習			講義 講義・演習 演習 講義 講義・演習 講義 講義 講義・演習 演習	専任教員
テキスト	医学書院／基礎看護技術Ⅱ 参考書；メディックメディア／ 看護がみえる①②				
評価方法	筆記試験（100点） 技術試験（可否）				

※授業科目担当の講師は、病院で成人・老年看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(専門分野)

授業科目	セルフケア支援の技術	講師	専任教員	実務経験	単位数
				○	1
授業の概要・学習目標	セルフケアは様々な領域で使われるようになっている。セルフケアには知力・体力・意思力の3側面があり、未充足の部分を何らかの方法で補いながら、それぞれのレベルでの自立を目指していく。長期間に渡り無理なく日常生活に取り入れて継続することができるように、個人が対処・調整し、その人を取り巻く人々が支援することが求められる。 セルフケア支援の技術は患者のセルフケア能力をアセスメントし、各々の患者・家族の状況に合わせて、患者自身がセルフマネジメントし行動変容ができるように関わっていく。 この単元では、実際に自分の生活上の課題に対し行動変容できるように取り組む。実際の体験を通して、自己管理をすることの困難さや行動変容の促進因子、セルフケア支援の技術の基礎を学ぶ。 <学習目標> 1) 看護におけるセルフケア支援の技術の基礎を学ぶ 2) 体験学習することによって、行動変容の困難さを理解できる 3) ワークを通して、実際に他者を支援する方法を学ぶ			時間数	
				15	
				学年	
				1	
				時期	
				前期	
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1～7	1. セルフケア・セルフケア支援を理解する 1) セルフケア 2) セルフケアの理論 3) セルフケア能力 4) セルフマネジメント 5) 自己効力感 6) セルフケア支援 2. セルフケアを阻害するもの 1) ストレスとは 2) ストレス理論 3) ライフイベントとストレス 4) ストレスの感じ方と影響の違い 5) ストレスへの対処行動 3. セルフケアを支えるもの 1) 自己肯定感 2) アドヒアランス 3) エンパワーメント 4) 動機付け 5) 予期 6) リフレイミング 7) メタ認知 8) リフレクション 9) 求助行動 10) 相談行動 11) レジリエンス 12) セルフ・コンパッション 4. セルフケア支援 1) セルフケア支援のツール (SCAQ) 2) セルフケア看護に必要なこと			講義 ワーク 体験学習 課題学習	専任教員
テキスト	医学書院／看護学概論 基礎看護技術Ⅰ 日本看護協会出版会／看護の基本となるもの V. ヘンダーソン著				
評価方法	筆記試験 (100 点)				

※授業科目担当の講師は、病院で成人・老年看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(専門分野)

[illegible]

※授業科目担当の講師は、病院で成人・老年看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(専門分野)

授業科目	苦痛の緩和・安楽の確保・関係性を発展させる技術 単元：関係性を発展させる技術（１５）	講師	専任教員	実務経験	単位数
				○	1
授業の概要・学習目標	看護は「対象との相互作用の中で実践される活動であり、互いに働きかけることによって人間として成長しあうことができる」というヒューマンケアリングの考えのもとに展開される。 看護者は看護の対象者との信頼関係を成立させ、健康あるいは健康問題の解決にともに取り組む役割を担う。基礎分野の人間関係論を活用しながら、医療・看護における人間関係の重要性を理解し、看護における関係・治療的关系に発展させる基礎を学ぶ。人間関係能力は、看護援助の効果を左右し、対象者の安心と安全に影響する。昨今多発している医療事故や訴訟問題は双方の関係性が関与しているといわれている。また、対象への医療サービスの提供は、医療スタッフとの連携で成立している。これらのことを考え、言葉や表面的なわざを修得するのではなく、内面の人間性を成熟発展させる重要性に気づき、自己の日常生活における関係性の発展、さらには卒後の実践力につなげることを期待する。			時間数	
				30	
				学年	
				1	
				時期	
				前期	
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1～7	1. 人間関係の概要 1) 人間関係の生涯発達 2) 日常の中の人間関係・コミュニケーション 3) 看護における人間関係 4) 自己の関係性 5) 自己開示 6) 理論からみる関係性 2. 看護における関係性の構築 1) コミュニケーションの構成要素・種類・影響する諸条件・特徴、基本：身だしなみ、表情、声のトーン、視線、距離等 2) ミスコミュニケーション 3) 関係性の構築と対象への効果（接近的行動・非接近的行動） 3. 関係性を発展させる技術 1) 関係性構築場面の再構成 2) 自分と他者のコミュニケーションの違い 3) 治療的コミュニケーション技法他 4. 関係性の技術の実践 演習：ベッドサイドにおける対象との関係を検証 1) 出合いの場における看護師の行動と関係性の発展 （1）音、風、手の添え方、呼吸など 2) 看護師の立ち位置と関係性の発展 （1）テリトリーと接近、姿勢 3) 援助時における関係性の発展 （1）準備、実施中の関わり、片付け、入室・退出 （2）接近・触れる関係を再考する 5. 連携・協働する者との関係性構築 1) 職種と関係性の特徴 2) アサーション			講義 講義 ・ ロールプレイ ・ グループワーク 演習 （プロセスレコード） グループワーク 講義 演習・グループワーク 講義 演習	専任教員
テキスト	医学書院／基礎看護技術Ⅰ				
評価方法	筆記試験（100点）				

※授業科目担当の講師は、病院で成人・老年看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

授業科目	環境・活動・休息の援助技術 単元：環境の援助技術（15）	講師	専任教員	実務経験	単位数
				○	1
授業の概要・学習目標	環境と人間の生活は相互に影響しあっている。安全かつ快適な生活をするために生活環境を整えることは必須である。人間にとっての環境の意味を理解し、時間・空間・他者との関係性・自分自身の行動などの環境の要素を中心に、学生自身の生活構造を考えながら望ましい環境とは何か、健康的な生活環境とその人らしい環境を整えるための知識と調整方法を習得する。 健康が障害され生活環境の変化が生じた時、健康回復を目的とした望ましい環境とは何か、看護の場面で常に考え、自然回復力を最大限に高める環境を調整するための援助技術を学ぶ。 環境調整援助技術は、対象の生命力を活性化させ、対象の健康回復に影響を及ぼすという看護者の力量が発揮される技術である。環境についてアセスメントでき、その状況に応じた環境調整が出来るための看護技術を修得する。			時間数	
				30	
				学年	
				1	
				時期	
				前期	
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1～7	1. 環境とは・生活とは 2. 健康生活における環境調整の重要性 3. 望ましい生活環境 ※いかなる場においても、その人らしい暮らしに対する理解が必要 4. 療養生活と環境 1) 実習を通して学んだ患者の生活環境の実態 5. 生活構造の変化と環境の調整 1) 人間関係と生活空間2) 室内気候と空気 3) 採光・照明4) 騒音 5) 時間 6. 生活環境を整えるためのアセスメントの視点 7. 生活環境調整の方法 1) 関係性を保つ 2) プライバシー保持への配慮 3) 健康時の生活感覚を大切に環境調整 4) 快適・安全な病床の整備 8. 快適で安全であるための基本的な病床の構造と機能 9. 対象の状況に応じた病床の整備 1) 患者を迎え入れるための基本ベッドの作成 2) 就床（臥床）患者の環境調整技術 （1）リネン交換の一方法 （2）クライアントのニーズに応じた環境調整 事例に基づき、アセスメントし、計画を立てる。 治療環境及び食事、排泄、睡眠などの日常生活をその人らしく過ごすことの出来る『生活環境』を考える。			講義 グループワーク 	

※授業科目担当の講師は、病院で成人・老年看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。（専門分野）

※授業科目担当の講師は、病院で成人・老年看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

授業科目	環境・活動・休息の援助技術 単元：活動・休息の援助技術（15）	講師	専任教員	実務経験 ○	単位数 1
授業の概要・学習目標	この単元は日常生活援助技術として位置付け、「姿勢・活動」と「睡眠・休息」について学ぶ。 「姿勢・活動」ではボデイメカニックスの原理やキネステティックの概念を取り入れ、体位変換・移乗・移送の援助の基本を身につける。また、「姿勢・体位における安全をはかる」ための知識が持てるように学習する。「睡眠・休息」では、人間の基本的欲求の中でも最も基本的な生理的欲求である「睡眠」について学ぶ。健康の保持・増進するためにより良い睡眠が重要であり、対象の「睡眠」への援助の必要性和方法を学ぶ。専門基礎分野の「人間の体のしくみ、日常生活のしくみ」と関連付けて学習し、専門分野Ⅱに発展できることをめざす。				時間数
					30
					学年
					1
					時期
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1～7	1. 「活動と休息」の意義 1) 私たちの生活から「活動」と「休息」を考える 2) 人間にとっての「活動・休息」の意義 3) 「活動と休息」における看護者の役割 2. 姿勢・活動の援助 1) 姿勢・活動に関する基礎知識 (1) 姿勢 (2) 姿勢を保つこと・身体を動かすことの意義 2) 体位 (1) 体位の種類と特徴 (2) 体位の安楽性 3) ボデイメカニックスの基礎 4) 体位変換 (1) 体位変換の目的と実施時の留意事項 (2) 体位変換の実際（仰臥位⇔側臥位、起座位） 5) 移乗動作介助 (1) 移乗動作介助を考える視点 (2) 移乗動作介助の実際 人の身体への触れ方と動かし方、寝返り動作、起き上がり動作、 移乗動作（トランスファー） 6) 移送 (1) アセスメントと方法の選択 (2) 移送の実施 歩行介助の要点、車椅子移動の介助、ストレッチャー 7) 姿勢・体位の援助に関する安全 (1) 廃用症候群予防 (2) 褥創形成予防 (3) 転倒・転落予防 8) 体位変換の新しい考え方：キネステティック概念の看護への応用 3. 睡眠・休息の援助 1) 睡眠・休息の基礎知識 2) 睡眠障害のアセスメント 3) 睡眠・休息の援助			講義 グループワーク 演習 デモンストレーション 〈校内実習〉 グループワーク 演習	専任教員
テキスト	医学書院／基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ				
評価方法	筆記試験（100点）				

(専門分野)

授業科目	清潔・衣生活の援助技術	講師	専任教員	実務経験	単位数
				○	1
授業の概要・学習目標	私たちが衣服を身につけることには、生理的、心理的、社会的な意義があり、健康生活とも深いかわりがある。また身体を清潔に保つことは人間にとっての基本的な欲求であり、幼少時より身につけ日常生活の中で行っている。しかし、病気になるとその欲求が低下し、療養生活や障害によって清潔でありたいという欲求を満たすことが困難となる。そのため人間としての基本的欲求を満たし、その人らしくあるためには、看護者の援助が必要となる。看護者として、対象の状況・状態や習慣・好みを取り入れた援助が実践できるよう、本単位では清潔・衣生活に必要な基礎的知識と実践する上での根拠を学んでいく。			時間数	
				25	
				学年	
				1	
				時期	
				後期	
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1～25	- 清潔の基礎知識 - 皮膚、粘膜の機能を保つ清潔の意義・目的 - 清潔援助の対象 - 清潔援助の効果 - 衣生活の基礎知識 - 清潔保持方法の選択・アセスメントの視点 - 整容の意義・整容の方法（爪切り、髭剃り、整髪） - 衣生活の意義（療養に適した衣服の条件、種類） - 対象の状態に応じた援助方法 - 身体の清潔（手浴、足浴） - 手浴、足浴の基礎知識 - 手浴、足浴の実際 - 身体清潔の方法（入浴、シャワー、清拭） - 洗剤の種類 - 入浴、シャワー浴の基礎知識 - 全身清拭の基礎知識 - 口腔の清潔・陰部の清潔 - 口腔の清潔の意義・目的 - 陰部の清潔の意義・目的 - 清拭の実際 臥床患者の全身清拭及び寝衣交換 - 頭部の清潔 - 頭部の清潔の意義・目的 - 臥床患者の洗髪の実際（ケリーパット使用）			講義 講義 演習 講義 演習 技術試験 講義 演習	専任教員
テキスト	医学書院／基礎看護技術Ⅱ				
評価方法	筆記試験(100点) 技術試験（可否）				

※授業科目担当の講師は、病院で成人・老年看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(専門分野)

※授業科目担当の講師は、病院で成人・老年看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

授業科目	食事・排泄の援助技術 単元：食事の援助技術（10）	講師	専任教員	実務経験	単位数
				○	1
授業の概要・学習目標	食事は、生命を維持するための栄養素を取り入れるために欠かせないものであるばかりでなく、楽しみや満足感、健康を認識するなどの心理的作用がある。また、人間関係の形成、その人のライフサイクルを構成するという社会的な側面を持つ。食事は患者の「生活の質」という観点からも重要であることを理解し、援助の方法が考えられている。技術として安全な嚥下・咀嚼のための体位や観察の方法、食事の器具を用いた食事援助の促し方、コミュニケーションを学ぶ。 また、経口摂取が困難な患者に対し、安全・安楽に栄養投与するだけでなく、食事に対する意欲の低下や生活のリズムを崩さず、調整していくような援助を学ぶ。摂取行動についてはその人らしく生きることを支援すること、「セルフケア能力」に視点をおき、専門分野Ⅱの小児・成人・老年看護に発展させる。専門基礎分野で学習した「日常生活のしくみ」・「栄養生化学」の学習と関連付け、根拠ある看護に発展させることをめざす。さらにこの学習を通して、学生自身の「食事」について考える機会とする。			時間数	
				30	
				学年	
				1	
				時期	
				前期	
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1～5	1. 健康と食事 1) 栄養状態の評価 2) 摂取行動、運動 3) 食欲 4) 消化吸収力と食事 2. 食事療法 3. 食生活の支援 1) 食欲のない患者 2) 食習慣の変更 4. 嚥下障害のない患者の食事介助 1) 部分介助 2) 全面介助 5. 嚥下障害のある患者の援助の実際 1) 部分介助 2) 全面介助 6. 経口摂取困難な患者の援助 1) 経管栄養法 2) 中心静脈栄養法 7. 摂食・嚥下、消化・吸収に関するフィジカルアセスメント 1) 口腔・咽頭のフィジカルアセスメント 2) 腹部のフィジカルアセスメント 8. 援助の実際—経管栄養法			講義 グループワーク 校内実習 講義 グループワーク 校内実習 講義 グループワーク 校内実習	専任教員
テキスト	基礎看護技術Ⅱ				
評価方法	筆記試験（100点）				

（専門分野）

※授業科目担当の講師は、病院で成人・老年看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

授業科目	食事・排泄の援助技術 単元：排泄の援助技術（20）	講師	専任教員	実務経験	単位数
	○			1	
授業の概要・学習目標	本単元は、専門分野Ⅰ 基礎看護学のなかの生活援助技術として、あらゆる人に共通する看護実践能力を習得するための科目の一つに位置付けられ、食事・排泄の援助技術として構成されている。排泄とは、人間が生命を維持するために、水・酸素・栄養物を取り込み、消化・吸収・代謝の過程を経て代謝産物を体外に排出するシステムのことである。排泄物は、生体の生命活動の結果としての産物で、その状態は健康状態を反映している。全身の消化・吸収・代謝、循環、内分泌状態を反映するため、健康状態のバロメーターともいわれ、生体の内部環境の変化を知る手がかりともなる。排泄のなかでも排便・排尿という排泄行動は、生体内部の恒常性を保ち、生命活動を維持していくために欠くことのできない生命行動であり、誰もが営む日常生活動作の一部である。 個人の排泄のありようは、その人の文化的背景に基づき、また、生活様式・習慣のなかに組み込まれているためさまざまであるが、排泄行動は個人の自立した行為であることが前提であり、どんな状況でも「排泄だけは自立していたい」と考える人がほとんどである。援助に当たっては、個人個人の排泄は、生活の質という観点からも重要であることを理解し、羞恥心や自尊心などへの十分な配慮が必要である。生活援助技術のなかでも、排泄障害のある対象に対する看護では、対象に苦痛をもたらすことも想定し、安全・安楽に実施できる技術を学ぶ。				時間数
					30
					学年
					1
					時期
					前期
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1～10	1. 排泄とは 2. 排泄に影響を及ぼす因子 3. 排泄の意義 1) 生理的（身体的）・心理的・社会的意義 2) 排泄の援助の基本 4. 排泄のアセスメント 5. 排泄の援助 1) 自然排泄を促す援助 2) 排泄障害のある対象への援助 6. 基本的な排泄援助技術＜便器・尿器＞ 7. 排便障害のある対象への援助 8. 排便障害のある対象への援助の実際【浣腸】 9. 排尿障害のある対象への援助 10. 排尿障害のある対象への援助の実際【導尿】			講義 グループワーク 校内実習 講義 グループワーク 校内実習	専任教員
テキスト	医学書院／基礎看護技術Ⅱ ＊テキストP476～「動画一覧」の排泄に関する動画を視聴して授業に臨む				
評価方法	筆記試験(100点)				

(専門分野)

授業科目	フィジカルアセスメント	講師	専任教員	実務経験	単位数
				○	1
授業の概要・学習目標	対象の健康状態を適切に把握し、正しい判断を行い、個別的な看護ケアを実践することは看護師の大きな役割のひとつである。看護の場は病院だけでなく、地域・在宅へと拡大しており、いかなる状況においても適切な把握と判断を行い、自主的に援助・支援を行う能力はさらに求められている。 ここではそれらの基盤となる身体を系統的に視る技術(フィジカルイグザミネーション)を学ぶ。問診・視診・打診・聴診の技術を用いて身体の発するサインを情報として得ること、そして身体の中で何が起きているのかを考えていく。基礎科目として、生命の徴候と日常生活行動に関連の深い系統の観察を扱う。直接的なかかわり（五感による察知）は重要であり、講義では、技術演習や体験（見たり、聞いたり、触ったり、感じたり）を通して学習する。 確実な技術とするための演習を行うとともに、呼吸・循環を整える援助技術も合わせて習得する。			時間数	
				30	
				学年	
				1	
				時期	
				前期	
回数	学 習 内 容		授業方法	講師	
1～15	1. フィジカルアセスメントとは フィジカルアセスメント・フィジカルイグザミネーション 2. フィジカルアセスメントに必要な技術 1) 問診 2) 視診 3) 打診 4) 聴診 3. 全体の概観を視る 1) バイタルサイン（体温・脈拍・呼吸・血圧・意識の観察） 2) 身体計測（身長・体重・腹囲・胸囲の測定） 4. 系統別フィジカルアセスメント 1) 呼吸器系のフィジカルアセスメント 自覚症状 徴候 呼吸音の聴診 検査所見 2) 循環器系のフィジカルアセスメント 自覚症状 徴候 心音の聴診 検査所見 3) 腹部のフィジカルアセスメント 自覚症状 徴候 触診 聴診 4) 筋・骨格系のフィジカルアセスメント 自覚症状 関節可動域 MMT 5. 演習：観察技術 呼吸 脈拍 血圧 体温の測定 意識レベル 呼吸音 心音 浮腫 腸蠕動音 関節可動域 MMTなど		講義 VTR 演習 技術試験 講義 演習	専任教員	
テキスト	医学書院／基礎看護技術Ⅱ 臨床外科看護総論				
評価方法	筆記試験(100点) 技術試験（可否）				

※授業科目担当の講師は、病院で成人・老年看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(専門分野)

授業科目	検査に伴う援助技術、 呼吸・循環を整える援助技術	講師	専任教員	実務経験	単位数
				○	1
授業の概要・学習目標	身体を系統的に視る技術（フィジカルイグザミネーション）を学んできた。この単元では看護師が患者をアセスメントする方法の1つである検体検査と基本的な生体検査の看護について学習する。得られた情報は診断や治療方針の選択、治療効果の確認のために使用されるが、看護師もその情報をアセスメントし必要な看護ケアは何か判断することが求められる。 検査における看護師の役割として、必要な情報を正確に得るための的確な手順、検査の実施や支援、検査後の支援、検査後の管理を行うことである。また検査の目的、手順、安全性などを説明し、対象が安心して検査を受けることができるような配慮も必要である。それらを踏まえ、各検査における具体的な看護について学習していく。			時間数	
				15	
				学年	
				1	
				時期	
				後期	
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1～7	1. 呼吸・循環を整える援助技術 1) 呼吸を楽にする姿勢・呼吸法 2) 気道分泌物の排出の援助 体位ドレナージ スクイーミング ハフティング 一時的吸引（口腔・鼻腔） 薬液吸入（ネブライザー） 3) 酸素吸入療法 4) 電法 5) 援助の実際 演習： 体位ドレナージ ネブライザー 酸素吸入療法 吸引（口腔・鼻腔） 電法（湯たんぽ・氷枕） 2. 検査に伴う援助技術 1) 検査の種類と実施時の注意点 （1）生体検査（生理学的検査） （2）検体検査 2) 検査の方法と看護 （1）X線単純撮影検査 （2）超音波検査 （3）心電図検査 （4）尿・便・喀痰検査 （5）採血—演習 3) 援助の実際 演習： 尿検査 血糖値の測定 採血			講義 VTR 演習 講義 演習	専任教員
テキスト	医学書院／基礎看護技術Ⅱ 臨床外科看護総論				
評価方法	筆記試験（100点）				

※授業科目担当の講師は、病院で成人・老年看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。
(専門分野)

※授業科目担当の講師は、病院で成人・老年看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

授業科目	与薬の援助技術	講師	専任教員	実務経験	単位数	
				○	1	
授業の概要・学習目標	看護師が行う与薬は診療の補助業務として位置付けられている。看護師は与薬を行う対象者にとって安全にもっとも効果的に薬理作用が働くように、そして対象が自立に積極的に関わることができるように援助することが求められる。人の身体内部に薬物が入ることに関与する際に看護師は、自己の責任と判断の重みを自覚し、看護の役割を遂行することが求められる。与薬に看護師が携わるとき、安全で確実な技術が求められており、正しい与薬、薬剤の管理方法を講義・演習を通して理解できることを目標とする。また、その中で様々な注射方法を学び、筋肉注射においては技術試験を行い技術の習得を目標とする。				時間数	
					30	
					学年	
					2	
					時期	
					前期	
回数	学 習 内 容			授業方法	講師	
1	1. 薬物の基本的知識 1) 薬とは 2) 薬物治療の目的 3) 薬物の投与方法と体内動態			講義	専任教員	
2	2. 正しく安全に投与するための方法 1) 医薬品とは 2) 薬物の管理・取扱い方法／毒薬・劇薬・麻薬 3) 正しい与薬／誤薬防止と6R			講義		
3	3. 与薬の援助方法 1) 経口与薬法 2) 口腔内与薬法 3) 吸入			講義		
4	4) 直腸内与薬法 5) 塗布・塗擦法 6) 点眼・経皮的与薬法			講義/演習		
5	7) 経皮的与薬の実際			講義/演習		
6	4. 注射法による与薬の援助 1) 注射法とは 2) 注射法における看護師の法的位置づけ 3) 注射法に共通する技術 4) 皮下注射 5) 皮内注射 6) 筋肉内注射 7) 静脈内注射			講義		
7	5. 注射法の実際 ＜筋肉内注射＞ デモンストレーション			講義/演習		
8・9	技術試験 ＜筋肉内注射＞			演習		
10 11	6. 輸液療法による与薬の援助方法 1) 輸液療法の意義と目的 2) 輸液療法の種類と方法 3) 輸液療法を行う患者の看護			講義/演習		
12	7. 輸液療法の実際 1) 薬剤のミキシング、点滴静脈内注射			講義/演習		
13	8. 輸血療法 1) 輸血療法の目的 2) 輸血の種類、副作用 3) 輸血の取扱い方法 4) 輸血療法を受ける患者の看護			講義		
14 15	9. 与薬の演習 1) 経口与薬 2) 留置針の挿入 3) インスリン皮下注射等			講義/演習		
テキスト		1. 「基礎看護技術Ⅱ」医学書院 2. 「看護がみえる① 基礎看護技術」メディックメディア 3. 「看護がみえる② 臨床看護技術」メディックメディア 4. 「今日の治療薬 2024」南江堂				
評価方法		筆記試験（100点） 技術試験（可否）				

（専門分野）

※授業科目担当の講師は、病院で成人・老年看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

授業科目	創傷管理・救命救急処置技術 単元 創傷管理技術 (15)	講師	専任教員	実務経験	単位数
				○	1
授業の概要・学習目標	創傷管理技術の共通原則は、①創の治癒過程を考え、目的に合っている ②感染を予防する ③循環障害の予防をする ④可動域制限を最小にして、生活行動を妨げない⑤安全安楽を守る 以上5項目が基本となっている。この単元では、創傷処置として一般的な急性創だけでなく、慢性創についても学習する。創傷治癒のために最適な局所環境を整えて順調に治癒するためには、創傷の状態や対象の生活状況に合わせた創傷処置の選択が大切である。時間の経過とともに、ずれや圧迫感、循環障害などが生じるような包帯法では、対象の生活動作に支障をきたすだけでなく、不快感・不信感も生じる。効果的な包帯法は、対象の回復する力を支える重要な看護技術の一つである。創傷処置を行うことで、局所の回復を促進するだけでなく、患者は医療者の言動や態度で回復を実感したり、落胆したりする。看護師の役割は、確かな知識と技術をもって、対象の安全安楽を考えながら苦痛を軽減し、患者の精神・心理面を支え、自然回復力を最大限に引き出すことである。対象には、感染の危険性が高いための確かな技術を提供することで処置を行うことで感染を予防することができる。このことは、対象の安全だけでなく、看護師の安全や他の患者の安全にもつながっていく。以上のことをふまえ、基本的な創傷管理技術を習得できるように授業をすすめていきたい。			時間数	
				30	
				学年	
				2	
				時期	
				後期	
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1～7	1. ドレッシングとは 1) ドレッシングの目的と基本的な原則 2) 看護師に求められる役割 3) 創傷の治癒形態や種類・適応 4) 創傷の治癒形態によるドレッシングの注意点 （1）急性創のドレッシング；術創・ストーマなど （2）慢性創のドレッシング；褥創 2. 包帯法の実際・技術 1) 巻軸包帯 2) 布はく帯・三角巾 3. ドレッシングチェンジの技術 1) 包交車について 2) 病院で使われている主な材料について 3) ドレッシングチェンジ；直接介助・間接介助 4. ドレッシングチェンジ校内実習 1) 直接介助・間接介助 2) 患者体験			講義 	

(専門分野)

※授業科目担当の講師は、病院で成人・老年看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

授業科目	創傷管理・救命救急処置技術 単元 救命救急処置技術 (15)	講師	専任教員 外部講師	実務経験	単位数
				○	1
授業の概要・学習目標	これまで学習してきた基礎看護技術全般を踏まえ、救急時の看護の実際について学習し、実践できる基礎看護技術を身につける。 専門職業人として医療施設における救急・急変時の看護に発展できることを目指す。また、どのような場所でも必要時、初歩的な救急法が実践できる能力を身につけることを期待する。そのため、実技演習を取り入れた授業展開とする。 ここで習得した知識・技術を統合分野の災害医療・国際協力の学習に発展させる。				時間数
					30
					学年
					2
					時期
					後期
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1～7	1. 救急医療・看護の意義 (1) 救急医療の概要を知ることが出来る (2) 日本の救急医療システムについて知ることが出来る (3) 救急看護の概要を知ることが出来る (4) 救急医療における看護師の役割を知ることが出来る 2. 救急看護の特性(役割/対応) 1) トリアージについて (1) トリアージの種類・違いを知ることが出来る (2) 院内トリアージの概要を知ることが出来る 2) 緊急時の初期対応について 3) 救急看護対象者の危機 (1) 救急看護対象者の心理・社会的特徴を知ることが出来る (2) 上記を踏まえ救急看護対象者への危機看護介入がわかる 3. 救急看護の実際 1) 救急看護対象者の観察および全身状態のアセスメントについて (1) フィジカルアセスメントの方法を知ることが出来る (2) 救急領域における特殊な疾患とその治療・看護を知ることが出来る (ショック、熱傷・凍傷、外傷、急性薬物中毒、熱中症 クラッシュシンドロームなど) 4. 救急蘇生法 (1) 救急蘇生について知ることが出来る (2) 救急蘇生法や緊急時の処置を演習で実施できる			講義 講義 講義 講義 東京警察病院看護専門学校 実習室で実技演習 動きやすい服装	専任教員 外部講師
テキスト	別巻 救急看護学 医学書院				
評価方法	筆記試験(100点)				

(専門分野)

※授業科目担当の講師は、病院で成人・老年看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

[illegible]

(専門分野)

※授業科目担当の講師は、病院で成人・老年看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

[illegible]

(専門分野)

※授業科目担当の講師は、病院で成人・老年看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

授業科目	支え合いのしくみと看護	講師	専任教員	実務経験	単位数
				○	1
授業の概要・学習目標	地域包括ケアシステムは団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度の要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生最期まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供されるシステムとして構築されてきた。現在、国はどのような病気や障害であっても、どの年齢の対象者であっても、どのような療養経過（予防から看取りまで）であっても住み慣れた地域で安心して安全に過ごせる社会の実現を目指し『我が事・丸ごと』地域共生社会』の実現を目指している。その中で看護職は多職種と連携し地域の人々やコミュニティと協働しながら効果的な看護を創造する力が求められている。したがって地域で主体的に取り組んでいる地域包括ケアシステムの仕組みや自助・互助への働きかけ（支え合いのしくみづくり）について理解し地域看護の視点を広げる。 本単元では地域包括ケアシステムについて理解し対象を広げ地域共生社会の実現に向けた取り組みについて理解する。また地域・在宅看護に関する制度法律の理解。人的物的制度的資源の理解。支援チームの構成や保健医療福祉の専門職だけでなく非専門職の機能役割についても理解していく			時間数	
				15	
				学年	
				1	
				時期	
				後期	
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1～7	1. 支え合って生きるとは 1) 家族、仲間 2) 近隣の人々 3) 学校や職場 4) 支え合いとは（自助互助共助公助） 2. 地域包括ケアシステムと地域共生社会 1) 保健医療福祉の専門職の理解 2) システムに関わる人々の理解 3) 支え合いのしくみ（実際例など） インフォーマルネットワーク 4) 多職種連携・協働の意義と方法 それぞれの職種の役割・特徴を活かし対象の目標に向けて 連携・協働のためのスキル（態度、コミュニケーションなど） 3. 在宅ケアを支える社会保障制度 1) 在宅ケアを支える医療保険制度 2) 在宅ケアを支える介護保険制度 3) 訪問看護に関する制度 4) 権利擁護に関する法や制度 5) 保健・障害者等に関する法と施策 4. 在宅療養を支える制度と社会資源の活用 1) 高齢者を支える制度と社会資源 2) 障害者の在宅療養を支える制度と社会資源 3) 在宅難病患者を支える制度と社会資源 4) 子どもの在宅療養を支える制度と社会資源			講義 グループワーク 個人ワーク 国際福祉機器展の参加	専任教員
テキスト	地域療養を支えるケア在宅看護論① 在宅療養を支える技術在宅看護論②（メディカ出版） 医療福祉総合ガイドブック（医学書院）				
評価方法	筆記試験(100点)				

（専門分野）

※授業科目担当の講師は、病院で成人・老年看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(専門分野)

※授業科目担当の講師は、病院で成人・老年看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

授業科目	地域で療養する人々と看護	講師	専任教員	実務経験	単位数
				○	1
授業の概要・学習目標	地域で療養する人は、その地域に「そこで」暮らす一人の生活者である。小児から老年までさまざまなライフステージにあり、多様な生活環境にいる人が看護の対象となる。あらゆる状況にあるその人やその人の家族、生活背景も含めてその人を理解し、社会資源を活用し必要な支援が得られるように看護していく。 地域・在宅看護の対象となる人のなかには、難病指定や障害認定を受けている人もいる。発症から医療機関での急性期治療を終え、在宅あるいは施設などの看護が行われる多様な場へ生活の場を切り替える時に、無理なく速やかに移行できるよう専門性を活かして退院調整を図り、継続看護を行う。自宅や施設においても、可能な限りセルフケア能力を活用しながら、かつ必要とする医療的管理やケアを継続して受けられるように、他職種と連携を図りながら調整していく。また、長期に渡り徐々にQOLが低下して死を免れない状況にあっても、その人と家族の価値観や思いに寄り添い、意思決定を尊重し看取りの場としても支援する。在宅や施設においても、ターミナル看護を実施し、本人や家族の不安や苦痛を最小限にかつ安楽を得られるように関わり、死後、家族を中心にグリーフケアを行う。チームにおいては多職種で連携を図り、あらゆる状況の変化に対応できるように協働していくことが求められる。 既習学習の中では、特に「看護学概論」や基礎看護技術「支える技術」、地域・在宅看護論「地域で暮らす人々」「支え合いのしくみと看護」等の既習学習を活かしながら、理解を深めていく。			時間数	
				15	
				学年	
				2	
				時期	
		前期			
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1～7	1. 地域・在宅看護の対象者と生活 1) 療養する人の理解 2) 生活する場の理解 ①グループホーム ②介護老人保健施設 ③特別養護老人ホーム 3) 家族等、療養者を取り巻く人の理解 2. 地域・在宅看護の特徴 1) 生活の自立支援 2) 病状・病態の変化の予測と予防 3) 家族介護の理解と支援 3. 看護の専門性と多職種連携 1) 訪問看護および施設看護 ①回復期リハビリ病棟 ②地域包括ケア病棟 2) 多職種連携と継続看護（退院調整等） 4. 障害・難病 1) 障害・難病の生活への影響 2) 障害・難病における看護の特徴 5. 地域・在宅で死を迎えるということ 1) ターミナルケア 2) 看取り 3) グリーフケア			講義 演習 グループワーク プレゼンテーション	専任教員
テキスト	地域療養を支えるケア在宅看護論① 在宅療養を支える技術在宅看護論② （メディカ出版）				
評価方法	筆記試験(100点)				

(専門分野)

※授業科目担当の講師は、訪問看護ステーションや地域包括支援センターでの経験があるため、

授業科目	地域・在宅看護マネジメント	講師	外部講師	実務経験	単位数
				○	1
授業の概要・学習目標	地域・在宅看護は保健・医療・福祉チームの連携を基盤として存在する。病院での急性期医療と地域・在宅を結ぶ暮らしの場においては、看護の継続性はもちろんのこと、療養者を取り巻く多職種と協働し、ケアマネジメントを行う。包括支援システムのなかで、看護は臨床判断を活かし専門性を発揮しながら支援する。 地域・在宅で療養する人とその家族のニーズを理解し、療養者とその家族が生活しているその地域の保健医療福祉システムの特徴を踏まえ、それを活用していくことが求められている。この単位では、地域・在宅のケアマネジメントを活かして、その人とその周囲の人々を支援する方法について学ぶ。			時間数	
				15	
				学年	
				2	
				時期	
				後期	
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1～7	1. 地域・在宅のチームケアの意義 1) ケアマネジメントの概念 2) 地域・在宅にチームケアの意義 3) 在宅看護と訪問看護 (1) 在宅看護とは (2) 訪問看護とは 2. 地域・在宅と病院の看護の継続 1) 退院調整とチーム連携 (1) 回復期リハビリ病棟 (2) 包括ケア病棟 2) 自立・自律支援 (1) 価値観・意思の尊重 (2) 自己決定への支援 3) 病状・病態の予測と予防 3. ケアマネジメントと看護の役割 1) 在宅看護の役割と機能 (1) ケアマネジメントのプロセス (2) 介護保険制度におけるケアマネジメント ①ケアマネージャーの役割 ②サービス担当者会議 ③ケアプラン (3) 訪問看護実践としてのケアマネジメント (4) 地域ケア看護における看護の役割 ①健康相談 ②健康予防 2) 地域・在宅看護活動の特徴 ①保健所との連携 3) ケアマネジメントと看護の役割			講義	外部講師
テキスト	地域療養を支えるケア在宅看護論① 在宅療養を支える技術在宅看護論② (メディカ出版) 医療福祉総合ガイドブック (医学書院)				
評価方法	筆記試験 (100 点)				

実務経験欄に○がついています。

(専門分野)

※授業科目担当の講師は、病院や訪問看護ステーションでの経験があるため、実務経験欄に○がついています。

授業科目	地域・在宅看護技術	講師	外部講師	実務経験	単位数
				○	1
授業の概要・学習目標	地域・在宅看護の技術では、地域・在宅看護において特徴的な援助方法を学習する。在宅における看護は療養者が自立して暮らしを継続していくよう支援していく。療養者が生活するその場所で看護を提供していくためにはその人との信頼関係を成立させていく必要がある。そのために、必要なマナーとコミュニケーションの方法について学ぶ。地域・在宅看護の技術は療養者自身と家族のアセスメントを行い、暮らしのニーズに合わせて直接支援していくかわりだけではなく、その人とその家族が自立して暮らしていくためにはどのような教育、指導の看護技術が必要かに注目する。日常の暮らしの支援の方法と技術では、日常生活の技術だけでなく、在宅看護実践者に求められる基本的な技術、在宅で医療管理を必要とする人と看護については、在宅で行われる診療の補助について必要な学習をする。終末期を在宅で迎える人とその家族には看護の力が期待されるところである。在宅で終末期を迎える状況をとらえ、自宅で QOL を尊重し、在宅でケアを受けられるよう苦痛の緩和や精神的支援などの看護の技術を学ぶ。			時間数	
				30	
				学年	
				2	
				時期	
				前期	
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1～15	〈在宅におけるマナーとコミュニケーション〉 〈日常生活の支援の方法と技術〉 1. 在宅看護・訪問に必要な日常生活援助技術 1) 療養者・家族の相談カウンセリング 2) 日常生活の評価の方法 2. 地域で暮らす人々に必要な日常生活援助技術 1) 日常生活や介護用品の工夫 〈医療管理を伴う療養者の看護〉 1. 在宅医療・看護に必要な技術 1) 呼吸を整える技術：酸素療法の管理(HOT, 在宅酸素療法) 人工呼吸器 気管カニューレの管理 吸引 2) 食事や栄養を整える技術：経管栄養の管理 中心静脈栄養の管理 3) 排泄を整える技術：膀胱留置カテーテルの管理 自己導尿の管理 4) 治療的な技術：褥瘡ケア 与薬の援助 〈終末期を在宅で迎える人の看護〉 1. 苦痛の軽減策 疼痛コントロール 2. 生活行動面の援助 3. 家族に対する支援			講義 演習	外部講師
テキスト	1. 地域療養を支えるケア 在宅看護論① 在宅療養を支える技術 在宅看護論② 2. よくわかる在宅看護 (学研) 3. 医療福祉総合ガイドブック (医学書院)				
評価方法	筆記試験(100点)				

(専門分野)

※授業科目担当の講師は、病院で成人・老年看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

授業科目	：暮らしを支え、医療とケア、 生き方や思いをつなぐ看護過程	講師	専任教員	実務経験	単位数
				○	1
授業の概要・学習目標	地域包括ケアシステムが構築され、どのような病気や障害であっても、どのような発達段階の対象者でも どのような療養経過（予防から看取りまで）であっても住み慣れた地域で安心して安全に過ごせるよう看護は医療とケア、生き方や思いをつなぎ看護を提供する役割がある。地域の特性の理解や対象を生活者としてとらえるための学びを活かし本単位では中野区で療養する対象者への問題解決志向と目標解決志向や対象者の強みを活かす思考と療養者と家族を対象により個別性の高い支援を創造する過程を学ぶ。 地域で療養生活を送るうえでの生活面のニーズを把握し対象者が自分のことは自分でできるように、できないことはできるように、そしてできなくなることを予防できるように対象者や家族の強みを活かした援助を創造するために対象が暮らす地域に出向き具体的に暮らしをイメージする力やワークを通して援助を創造する力を養う。				時間数
					15
					学年
					2
					時期
					後期
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1～7	1. 在宅看護過程の特徴（訪問看護のしくみ等復習） 1) 地域の理解 2) 情報収集の視点 3) 情報の整理・アセスメントの視点 4) 記録用紙の説明（ケアプランの見方など） 5) 事例紹介 2. A氏の暮らしと健康状態の理解 1) 地域のリサーチ（中野区江古田周辺） 2) 疾患の理解（病態、検査、治療、予後） 3) 情報の整理 4) A氏の活用できる社会資源について 3. 4側面の視点で対象の全体像を捉える 1) 疾患の理解（学習内容の確認） 2) 4側面でとらえた全体像の整理 3) A氏のアセスメント、看護目標、計画立案 4. 提出した資料をもとにグループワーク、発表 1) 地域の情報 2) 全体像の共有 3) 支援、援助の具体的な方法			講義 	

(専門分野)

授業科目	成熟過程にある人への 看護学概論Ⅰ(成人期)	講師	専任教員	実務経験	単位数
				○	1
授業の概要・学習目標	成人期は人口構造の多くを占め、社会的な役割・家庭における役割変化が著しい時期でもある。その背景には心身の発達という、まさに生産性を上げるに相応しい準備が営まれている。従って、その心身と社会的役割の関係を理解し、援助の方向性を考える基礎的能力を身につけることを目指す。また同時に、生活習慣病が顕在化しやすいこの発達段階の人々に向けて、看護だけではなく、保健医療福祉という全体で対象の健康をサポートしていることを理解できることを目標としている。 内容には、この時期の疾病構造や行政における健康対策も含む。 成人看護学概論は、この科目を履修したあとに続く「様々な健康状態にある人への看護」に発展させ、あらゆる健康状態に活用できる内容を加える。概論の最後には成人期に特徴的な能力を活かすための看護を事例で学習する。			時間数	
				30	
				学年	
				1	
				時期	
				後期	
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1 2・3 4・5 6 7・8 9 10 11 ～ 15	1. 大人とは・成人とは 2. 成人期の心身の特徴と社会的役割（職業・家族・人生）の関連 1) 発達段階・発達課題 両者の緊密な関係 3. 成人期の健康問題の動向と生活状況 1) 疾病構造と時代的な変化 2) 加齢・生活習慣による健康問題 4. 成人の生活を構成・支持する要素 1) 公的生活（学校・就労）・私的生活 5. 成人の健康観 1) 自分たちの行動・価値観と社会現象を概観しながら考える 6. 主な疾病と保健医療福祉対策 1) 疾病構造と行政の動き 2) 成人の健康を支える専門職種とその連携 7. 健康に影響を及ぼす因子と疾病・障害が社会生活に及ぼす影響 1) 家庭生活・社会生活 2) 職場における保健活動 3) 労働者の健康管理 4) 労働災害 5) 生活ストレスと健康（職業の特徴による疾病傾向） 8. 成人期の看護の特徴 1) 経済活動との関連 2) 家族との関連 3) 意志決定・自己管理能力 9. 学習者としての大人 10. 成人期の看護に有用な理論 1) セルフケア 2) ストレスコーピング 3) 自己効力 4) エンパワーメント 5) 危機理論 6) 適応モデル			講義 講義・演習 講義・演習 講義 講義・演習 講義 講義・演習 講義 講義 講義・演習	専任教員
使用テキスト			医学書院／成人看護学総論		
評価方法			筆記試験(100点)		

※授業科目担当の講師は、病院で成人・老年看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(専門分野)

授業科目	成熟過程にある人への看護学概論Ⅱ（老年期）	講師	専任教員	実務経験	単位数
				○	1
授業の概要・学習目標	老年看護の対象となる高齢者は老化によって衰えるからだをもつ一方で、歳を重ねるごとに豊かになる知恵や経験をたずさえている。老年看護では、このように衰退と成熟とを併存させた高齢者に対する看護の基本を学ぶ。 身体面での加齢変化は生理機能の衰退ばかりでなく、病理変化にも大きな影響を及ぼすとともに、精神活動や社会活動の低下をもたらす。このことを具体的に理解し、高齢者の看護の視点や留意点を考える基礎とする。また、わが国の高齢者が置かれている状況を様々な保健指標や社会指標を基にとらえ、看護だけでなく高齢者を支えている様々な保健・医療・福祉施策と多職種の連携について学ぶ。そして高齢者を取り巻く倫理的課題を理解し、高齢者の自立と権利を守るための看護の役割を学ぶ。 この講義では、グループワークや体験（見たり、聞いたり、触ったり、感じたり）を通して学習する。			時間数	
				30	
				学年	
				1	
				時期	
				前期	
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1～15	1. 老年看護学概論の位置づけ 2. 高齢者のイメージ 3. 老年期の理解 1) 老年期の発達段階の特徴、発達課題 4. 加齢に伴う身体的変化の側面 1) 恒常性と4つの力の変化 2) 高齢者の疾患の特徴 5. 加齢に伴う心理的変化の側面 6. 加齢に伴う社会的変化の側面 7. 老年看護における倫理的な課題と権利擁護 8. 老年看護の機能と役割 1) 老年看護の目標 2) 老年看護の役割 3) 老年看護における理論・概念の活用 サクセスフルエイジング・危機理論・セルフケア理論 ストレングスモデルなど 9. 老年観をはぐくむ：高齢者体験 10. 高齢看護の展望 11. 高齢社会における保健医療福祉の動向 12. 高齢者を支える多職種連携と看護活動 13. 高齢者と家族			講義 VTR グループワーク 個人学習 演習	専任教員
テキスト	医学書院／老年看護学 老年看護 病態・疾患論				
評価方法	筆記試験(100点)				

※授業科目担当の講師は、病院で成人・老年看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(専門分野)

授業科目	成熟過程にある人への看護学 高齢者の健康を支える看護	講師	専任教員	実務経験	単位数
				○	1
授業の概要・学習目標	加齢による機能低下のある高齢者では、生活の基本となる日常生活動作（ADL）の能力が低下する場合が少なくない。このことは高齢者のQOLを低下させる要因にもつながりやすい。この科目では、老年期にある人の生活機能を整える意味を考え、日常生活動作の評価の視点を理解し、具体的な看護援助の方法を学習する。前半は、加齢による身体機能の低下を踏まえ、基礎看護技術での学びを土台とし、高齢者への日常の生活援助を考えていく。また生活を活性化させる社会活動や生きがいについても考えていく。後半では、高齢者の健康や生活に大きな影響を及ぼす認知機能の障害を正しく理解し、看護を考える内容とする。 この講義では、ワークや体験（見たり、聞いたり、触ったり、感じたり）を通して学習し、高齢者の健康を支える看護を理解することを目標とする。			時間数	
				30	
				学年	
				2	
				時期	
				前期	
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1	1. 高齢者の生活機能を整える看護			講義	専任教員
2	1) 高齢者の健康を支える看護				
3	(1) 高齢者の健康な生活の維持 (2) 加齢に伴う身体的特徴と看護 (3) 高齢者と災害				
4	2) 加齢による機能低下に対する援助技術			講義 個人ワーク 個人ワークの発表	専任教員
5	(1) 活動機能の低下				
6	褥瘡・転倒の予防				
7	(2) 視聴覚機能の低下				
8	(3) 栄養管理				
9	摂食・嚥下機能・低栄養・脱水				
	(4) 排泄機能の低下				
	(5) 清潔と衣生活				
	(6) 睡眠				
	(7) 精神活動に関する援助				
	(8) 生きがい				
10	3) 援助の実際（校内演習）			講義 VTR視聴 調べ学習 技術演習	専任教員
11	(1) 口腔保清の援助（口腔ケアと義歯の管理）				
12	(2) 排泄の援助（排泄介助・オムツのあて方・摘便） (3) 摂食・嚥下機能低下への援助（嚥下困難食試食） (4) 移動動作				
13	2. 高齢者に特有な症候・治療における看護			講義	専任教員
14	1) 認知機能障害のある高齢者の看護				
15	(1) うつ (2) せん妄 (3) 認知症				
	2) 高齢者における薬物療法				
使用テキスト		医学書院／老年看護学 医学書院／老年看護 病態・疾患論			
評価方法		筆記試験（80点） 課題（20点）			

※授業科目担当の講師は、病院で成人・老年看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(専門分野)

授業科目	様々な健康状態にある成熟過程の人への看護Ⅰ	講師	専任教員	実務経験	単位数
				○	1
授業の概要・学習目標	様々な健康状態にある人への看護では、成人期から老年期への成熟過程にある対象に対して、健康レベル別に共通してみられる健康状態や健康問題に対する看護について学ぶ。今後、個々の人に合わせて看護を考える基礎とする。様々な健康状態にある人への看護Ⅰとして「健康な状態を保持・増進する看護」「緊急を要する危機的な状況を支援する看護」「治療的な侵襲を受ける状況を支援する看護」「障害を回復・維持しながら生活する状況を支援する看護」、様々な健康状態にある人への看護Ⅱとして「慢性的な健康障害がある状況を支援する看護」「がん患者と家族への看護」「人生の最期を迎える状況を支援する看護」について学ぶ。 それぞれの経過において、患者と家族は様々な状況に対応していかなければならない。この單元では、そのような人たちに対して家庭生活・社会生活をよりスムーズに営み、安定をもたらすための多職種連携やチームアプローチの必要性についても学習する。				時間数
					30
					学年
					2
					時期
					前期
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1～4	1. 健康な状態を保持・増進する看護 1) 個人の生活と健康、個人への健康教育と自己管理 2) 家族の健康管理 3) 地域・職場における健康教育			講義 演習:健康指導	専任教員
5～8	2. 緊急を要する危機的な状況を支援する看護 1) 心身の危機状態、死への不安・恐怖に対する状況への支援 2) 対象を支える家族への支援			講義 演習	
9～15	3. 治療的な侵襲を受ける状況を支援する看護 1) 手術を受ける人への支援 (1) 手術室看護 (2) 手術における麻酔と術操作による侵襲、侵襲からの回復 (3) ボディイメージの変容 (4) 高齢者と手術療法			講義 演習	
テキスト		医学書院／成人看護学[1]成人看護学総論 老年看護学 老年看護病態・疾患論 別巻 臨床外科総論 医歯薬出版／高齢者と成人の周手術期看護1・2			
評価方法		筆記試験(100点)			

※授業科目担当の講師は、病院で成人・老年看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(専門分野)

授業科目	様々な健康状態にある成熟過程の人への看護Ⅱ	講師	専任教員	実務経験	単位数
				○	1
授業の概要・学習目標	様々な健康状態にある人への看護では、成人期から老年期への成熟過程にある対象に対して、健康レベル別に共通してみられる健康状態や健康問題に対する看護について学ぶ。今後、個々の人に合わせて看護を考える基礎とする。様々な健康状態にある人への看護Ⅰとして「健康な状態を保持・増進する看護」「緊急を要する危機的な状況を支援する看護」「治療的な侵襲を受ける状況を支援する看護」「障害を回復・維持しながら生活する状況を支援する看護」、様々な健康状態にある人への看護Ⅱとして「慢性的な健康障害がある状況を支援する看護」「がん患者と家族への看護」「人生の最期を迎える状況を支援する看護」について学ぶ。 それぞれの経過において、患者と家族は様々な状況に対応していかなければならない。この單元では、そのような人たちに対して家庭生活・社会生活をよりスムーズに営み、安定をもたらすための多職種連携やチームアプローチの必要性についても学習する。				時間数
					30
					学年
					2
					時期
					前期
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1～5	1. 障害を回復・維持しながら生活する状況を支援する看護 1) 機能障害の受容過程と援助（ソーシャルサポートを含める） 2) 障害のある対象の家族への支援 3) リハビリテーションとは 4) 高齢者におけるリハビリテーション			講義 演習	専任教員
6～10	2. 慢性的な健康障害がある状況を支援する看護 1) 生涯コントロールが必要な状況と生活への影響 2) セルフケアにむけての支援 3) 高齢者の自立とセルフケアを支援する技術			講義 演習	
11～15	3. 人生の最期を迎える状況を支援する看護 1) 死の受容過程と支援 2) 末期の症状に対する緩和的援助 3) 対象を支える家族への支援 4) エンドオブライフケア ・アドバンスケアプランニング			講義 演習	
テキスト		医学書院／成人看護学[1]成人看護学総論 別巻 リハビリテーション看護 老年看護学 老年看護 病態・疾患論			
評価方法		筆記試験(100点)			

※授業科目担当の講師は、病院で成人・老年看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(専門分野)

授業科目	機能障害のある成熟過程の人への看護 Ⅰ. 呼吸・循環機能に障害のある人への看護	講師	専任教員 外部講師	実務経験	単位数
				○	1
授業の概要・学習目標	この科目ではひとの各器官が機能障害をきたした場合に、生活にどのような影響を与えるのかを理解し、必要な検査、治療に伴う看護を含め回復を促進するための具体的な援助を学ぶ。専門基礎分野における形態機能学・病態生理治療学での既習内容を土台に、さらにフィジカルアセスメントでの基本的観察に加え、各機能障害に特徴的な症状・徴候の観察が的確に行われアセスメントし適切な看護につなげることができるように学習していく。 ここでは成人から老年期までを含む学習内容とし、高齢者の場合、症状が非典型的であること、回復において予備力の低下が影響することも連続して学習し理解を深める。			時間数	
				20	
				学年	
				2	
				時期	
				前期	
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1～5	1. 呼吸機能に障害のある人への看護 1) 生活行動の特徴 2) 循環器機能との関係 3) 症状に応じた援助：呼吸困難、咳嗽・喀痰、咯血、胸痛 4) 治療・検査：気管支鏡、酸素療法、胸腔ドレナージ、人工呼吸器、手術			講義	専任教員 外部講師
6～10	2. 循環機能に障害のある人への看護 1) 生活行動の特徴 2) 呼吸器系との関係 3) 症状に応じた援助：胸痛、動悸、不整脈、呼吸困難、ショック、浮腫、脱水 4) 治療・検査：心臓カテーテル法(検査・治療)、除細動、薬物療法、手術			講義	専任教員 外部講師
テキスト		医学書院／成人看護学 [2]呼吸器 [3]循環器			
評価方法		筆記試験 (100 点)			

※授業科目担当の講師は、病院で成人・老年看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(専門分野)

授業科目	機能障害のある成熟過程の人への看護 Ⅱ. 栄養の取り込みと排泄機能に障害のある人への看護	講師	専任教員 外部講師	実務経験	単位数
				○	1
授業の概要・学習目標	この科目ではひとの各器官が機能障害をきたした場合に、生活にどのような影響を与えるのかを理解し、必要な検査、治療に伴う看護を含め回復を促進するための具体的な援助を学ぶ。専門基礎分野における形態機能学・病態生理治療学での既習内容を土台に、さらにフィジカルアセスメントでの基本的観察に加え、各機能障害に特徴的な症状・徴候の観察が的確に行われアセスメントし適切な看護につなげることができるように学習していく。 ここでは成人から老年期までを含む学習内容とし、高齢者の場合、症状が非典型的であること、回復において予備力の低下が影響することも連続して学習し理解を深める。			時間数	
				20	
				学年	
				2	
				時期	
				前期	
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1～5	1. 栄養摂取・消化機能に障害のある人への看護 1)生活行動の特徴 2)症状に応じた援助：食欲不振、嘔気・嘔吐、腹痛、腹満、下痢・便秘、吐血・下血、黄疸、肝性昏睡 3)治療・検査：内視鏡、腹部造影、肝生検、腹部穿刺・ドレナージ、食事療法、薬物療法、輸液療法、手術			講義	専任教員 外部講師
6～10	2. 排泄機能に障害のある人への看護(腎・泌尿器系) 1)生活行動の特徴 2)症状に応じた援助：排尿障害、浮腫、高血圧、痛み、尿毒症、性的障害 3)治療・検査：腎機能検査(PSP、Ccr)、内視鏡(尿道・膀胱鏡)、食事療法、透析療法、放射線療法、薬物療法、			講義	専任教員 外部講師
テキスト		医学書院／成人看護学 [5]消化器 [8]腎・泌尿器			
評価方法		筆記試験 (100 点)			

※授業科目担当の講師は、病院で成人・老年看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(専門分野)

授業科目	機能障害のある成熟過程の人への看護 Ⅲ. 身体を適切に動かす機能に障害がある人への看護	講師	専任教員 外部講師	実務経験	単位数
				○	1
授業の概要・学習目標	この科目ではひとの各器官が機能障害をきたした場合に、生活にどのような影響を与えるのかを理解し、必要な検査、治療に伴う看護を含め回復を促進するための具体的な援助を学ぶ。専門基礎分野における形態機能学・病態生理治療学での既習内容を土台に、さらにフィジカルアセスメントでの基本的観察に加え、各機能障害に特徴的な症状・徴候の観察が的確に行われアセスメントし適切な看護につなげることができるように学習していく。 ここでは成人から老年期までを含む学習内容とし、高齢者の場合、症状が非典型的であること、回復において予備力の低下が影響することも連続して学習し理解を深める。			時間数	
				30	
				学年	
				2	
				時期	
				前期	
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1～7	1. 脳神経系に障害のある人の看護 1)生活行動の特徴 2)症状に応じた援助：意識障害、運動麻痺、言語障害、頭蓋内圧亢進症状 嚥下障害 3)治療・検査：脳カテーテル法(検査・治療)、CT/MRI、脳室ドレナージ 理学療法、言語療法、作業療法、手術			講義	専任教員 外部講師
8～14	2. 運動器系に障害のある人への看護 1)生活行動の特徴 2)症状に応じた援助：神経麻痺、循環障害、疼痛、拘縮、可動域制限 3)治療・検査：内視鏡、造影、穿刺、ギプス固定、牽引療法、理学療法 作業療法、薬物療法、手術			講義	専任教員 外部講師
15	3. 感覚器系に障害のある人への看護 1)生活行動の特徴 2)症状に応じた援助：視力障害、感覚障害、搔痒感他 3)治療・検査：薬物療法・手術療法・レーザー療法・耳鏡療法・聴力検査			講義	専任教員 外部講師
テキスト		医学書院／成人看護学 [7]脳・神経 [10]運動器 [12]皮膚 [13]眼 [14]耳鼻咽喉			
評価方法		筆記試験 (100 点)			

※授業科目担当の講師は、病院で成人・老年看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(専門分野)

授業科目	機能障害のある成熟過程の人への看護 Ⅳ. 内部環境を整える機能・生殖機能に障害のある人への看護	講師	専任教員 外部講師	実務経験	単位数
				○	1
授業の概要・学習目標	この科目ではひとの各器官が機能障害をきたした場合に、生活にどのような影響を与えるのかを理解し、必要な検査、治療に伴う看護を含め回復を促進するための具体的な援助を学ぶ。専門基礎分野における形態機能学・病態生理治療学での既習内容を土台に、さらにフィジカルアセスメントでの基本的観察に加え、各機能障害に特徴的な症状・徴候の観察が的確に行われアセスメントし適切な看護につなげることができるように学習していく。 ここでは成人から老年期までを含む学習内容とし、高齢者の場合、症状が非典型的であること、回復において予備力の低下が影響することも連続して学習し理解を深める。				時間数
					30
					学年
				2	
				時期	
				前期	
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1～5	1. 血液・免疫機能に障害のある人への看護 1)生活行動の特徴 2)症状に応じた援助：貧血、出血傾向、(関節)炎症症状、痛み、発熱 皮膚症状(レイノー症状) 3)治療・検査：骨髄穿刺、食事療法、安静療法、放射線療法、薬物療法、手術療法			講義	専任教員 外部講師
6～10	2. 内分泌・代謝系に障害のある人への看護 1)生活行動の特徴 2)症状に応じた援助：肥満・るい痩、高血糖・低血糖、皮膚症状、精神症状 3)治療・検査：食事療法、薬物療法(インシュリン・ホルモン療法含む) 運動療法、糖負荷による血糖検査・血糖日内変動			講義	専任教員 外部講師
10～15	3. 女性生殖・乳腺機能に障害のある人への看護 1)生活行動の特徴 2)症状に応じた援助：ホルモン欠落症状・出血・帯下・疼痛・下腹部膨満・排尿障害 3)治療・検査：HPV検査・腹部、乳房超音波・マンモグラフィー・薬物療法・ 4)手術療法・放射線療法			講義	専任教員 外部講師
テキスト		医学書院／成人看護学 [4]血液・造血器 [6]内分泌・代謝 [9]女性生殖器			
評価方法		筆記試験(100点)			

※授業科目担当の講師は、病院で成人・老年看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(専門分野)

授業科目	成熟過程にある人への看護過程の展開	講師	専任教員	実務経験	単位数
				○	1
授業の概要・学習目標	成人期・老年期の対象を「成熟過程にある人」とし、ライフサイクルの中で連続性を持ちながら生きていく存在としてとらえる考え方は看護過程においても共通している。成人期・老年期の特徴は以下のように学習していく。 成人期の対象の看護をしていくためには、多様な健康状態にあわせ、仕事や家庭などの個々の生活スタイルや価値観を踏まえ、そのニーズを総合的に判断し、配慮した上での実施が求められる。 老年期の対象は予備力、防衛力、適応力、回復力が低下している中で、ひとたび何らかのストレス（疾病）が加わることでバランスが崩れて不安定となり、残された機能も果たせなくなる。高齢者自身の変化に合わせて自立した生活を営むためには、加齢に伴う体の変化である高齢者の特性を配慮した看護が求められる。 この科目ではひとりの人の人生を通して、その人が仕事や家族関係を含め多くの役割を持つ成人期、そこからさらに年齢を重ね加齢変化も現われている老年期の二つの時期での看護を連続して考えていく。成人期と老年期の特徴を踏まえ、多様な健康状態・障害に対するアセスメント力、および看護展開の基礎的能力を身につけられるよう学んでいく。			時間数	
				20	
				学年	
				2	
				時期	
				後期	
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1～10	1. 看護過程の考え方 2. 対象を理解するために必要な視点 対象の特徴をとらえ情報の整理をする 1) 成人期の対象について考えるための視点 2) 老年期の対象について考えるための視点 3. 解釈・分析の視点と結論の導き方 1) 多様な健康状態・障害に対するアセスメント 2) QOL の維持・向上に向けた看護の視点 4. 解釈・分析の結論から看護の必要性の判断 1) 全体像の把握 2) 看護上の問題の特定 3) 看護上の問題の明確化 4) 問題の優先順位 5. 看護目標と看護計画立案 1) 成人期・老年期におけるケアプランの特徴 6. 評価の視点と再計画 1) 評価の目的・時期 2) 評価の内容 3) 評価結果と修正			講義 グループワーク 個人学習	専任教員
テキスト		講師作成資料			
評価方法		課題(可否)			

※授業科目担当の講師は、病院で成人・老年看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(専門分野)

授業科目	小児看護学概論	講師	専任教員	実務経験	単位数
				○	1
授業の概要・学習目標	小児看護の対象は、健康・不健康を問わず全ての小児である。現代の小児と家族の概況をとらえ、小児看護の役割と課題について学ぶ。小児は常に成長・発達をしている存在であるため、基礎分野で学んだ「生涯発達心理学」の知識をもとに発達段階による各期の特徴・健康や日常生活の課題をとらえることを目標とする。 また小児を取り巻く環境として、現代の家族や社会の状況を学び、小児や家族を支える法律や政策、小児の権利を守ることにについて考える。地域で生活する家族が安心して育児できるための、地域包括ケアシステムという概念をもとに、保健・医療・福祉の連携と協働を学び、小児の環境づくりという小児看護の重要な役割を理解することを目標とする。				時間数
					30
					学年
					1
					時期
					前期
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1	1. 小児看護の特徴と理念 1) 小児の特徴と看護の特徴・理念 2) 小児看護の目的・目標			講義	専任教員
2	2. 小児と家族の諸統計 1) 人口構造 2) 出生と死亡に関する統計 3) 小児看護の変遷			講義	専任教員
3	3. 小児看護における倫理 1) 子どもの権利 2) 医療現場でおこりやすい問題点と看護			講義	専任教員
4・5	4. 小児をめぐる法律と政策 1) 児童福祉 2) 母子保健 3) 医療費の支援 4) 予防接種 5) 学校保健			講義	専任教員
6・7	5. 小児の成長発達の特徴 1) 成長の評価 2) 発達の評価			講義	専任教員
8・9	6. 小児各期の成長発達の特徴 1) 新生児・乳児 2) 幼児・学童 3) 思春期・青年期			講義	専任教員
10 ～ 13	7. 家族の特徴とアセスメント 1) 子どもにとっての家族 2) 現代家族の特徴 3) 家族のアセスメント			講義 グループワーク	専任教員
15	8. まとめ			講義	専任教員
使用テキスト		1. 医学書院／小児看護学概論／総論 2. 医学書院／小児臨床看護学各論 3. インターメディカ／写真でわかる小児看護技術 アドバンス			
評価方法		筆記試験(100点)			

※授業科目担当の講師は、病院で小児看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(専門分野)

授業科目	子どもの成長・発達に応じた生活への支援	講師	外部講師	実務経験	単位数
					1
授業の概要・学習目標	小児は、出生直後の生活全般を母親（主たる養育者）に依存した状態から、発達とともに日常生活動作を徐々に獲得していく。小児の健やかな成長・発達を支援するには、発達段階を踏まえた日常生活援助を提供できる知識・技術が必要である。また同時に、家族が適切な養育を実施できるための支援をすることも求められる。本科目では、成長・発達に応じた日常生活の援助技術について演習を含めて具体的に学ぶ。 子どもおよび家族に対する「共感」や「察する」ことの重要性を、日常生活援助の演習を通して学び、小児看護学実習で活用できるようにしていくことを目標とする。				時間数
					30
					学年
					1
					時期
					後期
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1 2 3	1. 発達各期の養育および看護 1) 日常生活の援助（環境調整、排泄、清潔・衣生活、睡眠） (1)新生児 (2)乳児 (3)幼児 (4)学童 (5)思春期・青年期			講義	外部講師
4 5 6 7					
8 9 10					
11 12 13 14 15	2. 小児の栄養の特徴と支援 1) 子どもにとっての栄養の意義 2) 子どもと食育 3) 食事摂取基準 4) 発達段階別の栄養の特徴と看護 (母乳栄養・人工栄養・離乳食・幼児期・学童期の栄養)			講義・演習	外部講師
11 12 13 14 15	3. 発達段階に応じた遊び・運動の支援				
11 12 13 14 15	4. 小児における主な事故の特徴と予防 (交通事故、熱傷、溺水、転落、外傷、誤飲)			講義・演習	外部講師
テキスト		系統看護 小児看護学1・2 小児看護概論/小児臨床看護総論 小児臨床看護各論			
評価方法		筆記試験（100点）			

(専門分野)

授業科目	子どもの健康状態に応じた小児と家族の看護	講師	外部講師 専任教員	実務経験	単位数
				○	1
授業の概要・学習目標	近年の社会情勢や家族の状況により、子どもを取り巻く環境は大きく変化している。小児の健やかな成長・発達は、家族にとっての願いであり望みであるが、身体的・心理的・社会的に発達途上にある子どもは、環境の影響を受けやすく疾病にかかりやすい。また、先天的な疾患もある。子どもが病気になった時や、障害を持った時の本人および家族の不安や戸惑いは計り知れない。子どもとその家族をめぐる状況を考え、さまざまな健康レベルにある小児とその家族の看護を学ぶ。また、小児が健康障害から回復、健康の保持・増進するための具体的な看護実践の基礎を学習することを目標とする。				時間数
					30
					学年
					2
					時期
					後期
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1	1. 子どもの健康障害			講義	専任教員
2	1) 疾病・障害が小児と家族に与える影響				
3	(1)子どもが病気になること (2)入院が子どもと家族に与える影響 (3)小児ケアシステム：外来の機能と役割				
4	2. 小児の健康問題と看護			講義	専任教員 外部講師
5	1) 疾病の経過と看護				
6	(1)急性期にある小児と家族の看護：				
7	痛み・発熱・呼吸困難・痙攣・意識障害・嘔吐・下痢・脱水・発疹				
8	(2)周手術期にある小児と家族の看護：				
	肥厚性幽門狭窄症、ファロー四徴候、鎖肛				
	(3)慢性期にある小児と家族の看護				
	生涯コントロールを必要とする小児のセルフケア向上： 糖尿病				
	(4)終末期にある小児と家族の看護： 白血病				
	(5)先天性疾患のある小児と家族の看護：ダウン症				
9	3. 小児のアセスメント			講義・演習	専任教員
10	1) 小児各期におけるコミュニケーションの特徴・看護				
11	2) バイタルサイン測定 3) 小児のアセスメント				
12	4. 検査、治療・処置を受ける子どもと家族の看護			講義	専任教員
13	採血・採尿・骨髄穿刺・腰椎穿刺・身体抑制など				
14				講義	専任教員
15	5. プレパレーション				
テキスト		系統看護 小児看護学1・2 小児看護概論/小児臨床看護総論 小児臨床看護各論			
評価方法		筆記試験（100点）			

※授業科目担当の講師は、病院で小児看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(専門分野)

授業科目	小児の看護過程	講師	専任教員	実務経験	単位数
				○	1
授業の概要・学習目標	小児は常に成長・発達している存在である。「小児看護学概論」「子どもの成長・発達に応じた生活への支援」「小児期の疾患の病態生理治療学」「子どもの健康状態に応じた看護」で学んだ知識を統合し、疾患を持つ小児とその家族に対して、援助を実践するために必要な看護過程の基礎を学ぶ。 また、小児の症状は急激に変化するという特徴がある。その場での観察とアセスメント、看護実践の演習を含めて、実践的に学ぶことを目標とする。			時間数	
				15	
				学年	
				2	
				時期	
				後期	
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1	1. 小児の看護過程の考え方			講義	専任教員
2	2. 小児を理解するために必要な視点 1) 発達段階と発達課題 2) 疾患の理解（受診・入院時の状況、検査・治療処置） 3) 家族の機能と役割 4) 日常生活の自立状況と入院・疾病からの影響			講義・演習	専任教員
3	3. 解釈・分析の視点と結論の導き方			講義・演習	専任教員
4	4. 解釈・分析の結論から看護の必要性の判断			講義・演習	専任教員
5	1) 全体像の把握 2) 看護上の問題の特定 3) 看護上の問題の明確化 4) 問題の優先順位				
6	5. 看護目標と看護計画立案			講義・演習	専任教員
7	6. 観察とアセスメント、援助の実際			講義・演習	専任教員
テキスト		系統看護 小児看護学1・2 小児看護概論/小児臨床看護総論 小児臨床看護各論			
評価方法		課題（可否）			

※授業科目担当の講師は、病院で小児看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(専門分野)

授業科目	生命の発育を支える看護の基本	講師	専任教員	実務経験	単位数
				○	1
授業の概要・学習目標	生命の発育を支える看護の概念と現在の社会の動向、法律や施策と支援の現状を学び、生命の発育を支える看護の中心である女性を総合的に理解する。また、女性の一生におけるライフサイクル各期の特徴と自らが QOL の維持・向上を目指せる支援と看護を学び、看護者としての役割を明確にすることを目標とする。				時間数
					30
					学年
					1
					時期
					後期
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1・2	1. 生命の発育を支える看護の主な概念 1) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 2) 性(セクシュアリティ) 3) 性の多様性 4) 母性・父性・親性 5) 母性看護のあり方 6) 家族の発達・機能 7) 母性の基盤となる概念			講義	専任教員
3	2. 倫理 1) プライバシーの保護 2) 自己決定の尊重 3) 倫理的課題				
4・5	3. 世界・日本の動向 1) 出生に関する統計 2) 新生児・乳児・周産期死亡に関する統計 3) 死産、流産、人工妊娠中絶に関する統計				
6・7	4. 法律や施策と支援 1) 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律 2) 性暴力被害者支援 3) 虐待防止に関する法律 4) 母体保護法 5) 女性の就労に関する法律 6) 周産期医療システム 7) 子育て包括支援 8) 在留外国人の母子支援 9) 災害時の母子支援			講義	専任教員
8・9	5. ライフサイクル各期における看護 1) 身体の特徴(性周期と妊娠の成立) 2) 心理・社会的特徴				
10・11	3) 思春期・成熟期の特徴と健康課題 第二次性徴、初経、性意識・性行動の発達、月経異常、 性感染症(STI)、家族計画と受胎調節、人工妊娠中絶、 不妊症、女性生殖器疾患(子宮筋腫、子宮内膜症)				
12・13	4) 更年期・老年期の特徴と健康課題 閉経、更年期症状、骨粗鬆症、骨盤臓器脱、膣炎、外陰炎			講義/演習	専任教員
14	5) ヘルスプロモーション				
使用テキスト		医学書院／母性看護学概論			
評価方法		筆記試験(100点)			

※授業科目担当の講師は、病院で母性看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(専門分野)

授業科目	生命の誕生を支える看護	講師	外部講師 専任教員	実務経験	単位数
				○	1
授業の概要・学習目標	妊娠期・分娩期の対象の特徴を理解し、各期における健康促進に対する看護の基礎的な能力を身につける単元である。ここでの学びは、妊婦の生理的変化が正常から逸脱せず経過するように支援すること、また、産婦には安全を最優先し安楽と希望の自己実現を支援することを目指し、対象の意思を尊重した支援を考えるための基盤となる。				時間数
					30
					学年
					1
					時期
					後期
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1	1. 周産期の看護の特徴 1) ウェルネス型看護診断・マタニティ看護診断			講義	専任教員
2	2. 妊婦の看護			講義	専任教員
3	1) 正常な妊娠の経過 (1) 妊娠期の定義 (2) 妊娠の経過と胎児の発育 (3) 母体の生理的変化(4) 妊婦と家族の心理・社会的特徴			講義 講義	専任教員 専任教員
4	2) 妊婦健康診査：健康管理と保健指導				
5	3) 妊婦と家族への看護			講義 講義	専任教員 専任教員
6	(1) 食生活 (2) 健康維持・増進、セルフケア (3) マイナートラブルのへの対処 (4) 家族の再調整 (5) 出産・育児の準備				
7	4) ハイリスク妊婦の看護			講義	専任教員
8	(1) 不育症、流早産 (2) 感染症 (3) 常位胎盤早期剥離 (4) 前置胎盤 (5) 妊娠高血圧症候群 (6) 妊娠糖尿病 (7) 高年妊娠若年妊娠 (8) 胎児機能不全			講義	外部講師
9	3. 産婦の看護				
10	1) 正常な分娩の経過 (1) 分娩期の定義 (2) 分娩の三要素 (3) 分娩の経過 (4) 産婦と家族の心理的特徴			講義 講義	外部講師 外部講師
11	2) 産婦の健康診査：健康診査、胎児の健康状態				
12	3) 産婦と家族への看護			講義 講義	外部講師 外部講師
13	(1) 産婦の基本的ニーズへの支援 (2) 産痛緩和と分娩進行に応じた看護 (3) 産婦と家族の心理への看護				
14	4) ハイリスク産婦の看護			講義	外部講師
15	(1) 破水 (2) 帝王切開 (3) 異常出血 (4) 陣痛異常				
テキスト		医学書院／母性看護学概論 母性看護学各論			
評価方法		筆記試験 (100 点)			

※授業科目担当の講師は、病院で母性看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(専門分野)

授業科目	生命の育みを支える看護	講師	専任教員	実務経験	単位数
				○	1
授業の概要・学習目標	産褥期・早期新生児期の対象の特徴を理解し、各期における健康促進に対する看護の基礎的な能力を身につける単元である。ここでの学びは、褥婦・新生児の生理的变化が正常から逸脱せず経過するように支援すること、また、母子関係確立と家族が地域社会で生活する対象がより良い生活を送れるように支援することを考えるための基盤となる				時間数
					30
					学年
					2
					時期
					前期
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1	1. 褥婦の看護			講義	専任教員
2	1) 正常な産褥の経過 (1) 産褥期の定義 (2) 産褥の経過と身体の生理的变化 (3) 褥婦と家族の心理的・社会的特徴				
3	2) 褥婦の健康診査：健康診査と保健指導				
4	3) 褥婦と家族への看護				
5	(1) 日常生活とセルフケア (2) 子宮復古促進のための支援 (3) 母乳育児への支援 (4) 母子相互作用を促す援助 (5) 育児技術獲得支援 (6) 家族の再構築 (7) 社会的支援（ソーシャルサポート）			講義・演習 講義	専任教員 専任教員
6	4) ハイリスク褥婦の看護				
7	(1) 帝王切開術後 (2) 子宮復古不全 (3) 産褥熱				
8	(4) 乳腺炎 (5) 産後精神障害 (6) 尿路感染、排尿障害				
9	2. 早期新生児期の看護			講義	専任教員
10	1) 早期新生児期の特徴と生理的变化 (1) 新生児期の定義と特徴 (2) 胎外生活への適応過程				
11	2) 新生児の健康診査				
12	3) 早期新生児の胎外生活への適応促進の看護				
13	(1) 気道開通 (2) 保温 (3) 全身計測 (4) 全身の観察 (5) 栄養 (6) 清潔 (7) 安全（感染、事故、環境）			講義・演習	専任教員
14	4) ハイリスク早期新生児の看護				
15	(1) 先天異常 (2) 早産児、低出生体重児 (3) 新生児一過性多呼吸(TTN) (4) 呼吸窮迫症候群(RDS) (5) 胎便吸引症候群(MAR) (6) 高ビリルビン血症 (7) 新生児ビタミン欠乏症 (8) 低血糖症 (9) 死産				
テキスト		医学書院／母性看護学概論 母性看護学各論			
評価方法		筆記試験（100点）			

※授業科目担当の講師は、病院で母性看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(専門分野)

授業科目	生命の発育を支える看護の統合と実践	講師	専任教員	実務経験	単位数
				○	1
授業の概要・学習目標	生命の発育を支える看護の対象の特徴を理解し、各期における課題に対する看護の基礎的な能力を身につける単元である。これまでの学習をもとにシミュレーション演習を通して、看護技術、コミュニケーション、臨床判断を活用し、アセスメントを行い、看護実践能力を養う				時間数
					1 5
					学年
					2
					時期
					後期
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1	1. シミュレーション演習			講義・演習	専任教員
2	1) ブリーフィングにて情報を共有する			講義・演習	専任教員
3					
4	2) シミュレーション				
5	産褥期・新生児期の事例を母子ともにアセスメントし、正常からの逸				
6	脱がなかったか、順調に経過したのかを考える。また、事例を通して実際にシミュレーションを行い、看護技術の方法や観察の視点を学ぶ。			講義・演習	専任教員
	(1)産褥期の観察と身体回復・健康促進の看護の実践				
	(2)新生児期の観察と胎外生活適応促進の看護の実践			講義・演習	専任教員
7	3) デブリーフィングにて気づきや学びを共有する				
	(1)グループディスカッション				
テキスト	医学書院／母性看護学概論 母性看護学各論				
評価方法	課題（可否）				

※授業科目担当の講師は、病院で母性看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(専門分野)

授業科目	精神看護学概論	講師	専任教員	実務経験	単位数
				○	1
授業の概要・学習目標	心の健康問題を考えるためには、その成長や働きを理解する必要がある。看護の対象である人は様々な発達段階にある。一般的な心の成長発達や危機を学ぶことで、人を理解する視点を広げ、対象理解に役立てていくとともに、自分自身を考え振り返えることで「その人らしさ」を理解するための基礎的な力としたい。 また、精神医療保険福祉に関連する法律や社会資源について学習し、人としての権利や倫理について考え、自らの精神の健康の保持・増進も含め、精神保健の重要性と精神看護の役割について理解を進めていくことを目標とする。 さらに、精神保健医療福祉の変遷と現状を学び、社会における役割と課題について検討できるようにしていく。				時間数
					30
					学年
					1
					時期
					前期
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1	1. 精神保健の考え方			講義	専任教員
2	2. 精神保健における日本の特徴			講義	
3	3. 心の機能と発達			講義	
	1) フロイトの理論 2) エリクソン他の理論 3) 防衛機制				
4	4. 人間と集団			講義	
	1) 集団力動				
5	5. 家族と精神の健康			講義	
6	6. 精神保健医療福祉と看護の変遷			グループワーク	
7	1) 欧米の歴史 2) 日本の歴史			発表	
8	3) 精神の健康・不健康及び精神障害の考え方				
9	7. 現代社会と精神の健康			講義	
	1) 現代社会の特徴 2) 現代社会における精神保健の主な問題				
10	8. 暮らしの場と精神の健康			講義	
	1) 学校における精神の健康 2) 職場・仕事における精神の健康				
	3) 地域における生活と精神の健康				
11	9. 精神の危機状況と精神保健			講義	
	1) 危機の概念と予防 2) ストレスとコーピング				
	3) 適応と不適応 4) セルフマネジメント				
	5) 災害時の精神保健医療				
12	10. 看護師のメンタルヘルス			講義	
13	11. 社会の変化とメンタルヘルス			講義	
14	12. 精神障害と法制度			講義	
15	13. リエゾン精神看護			講義	
使用テキスト		メヂカルフレンド社／新体系精神看護① 精神看護学概論・精神保健			
評価方法		筆記試験(100点)			

※授業科目担当の講師は、病院で精神看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(専門分野)

授業科目	精神障害のある人の理解	講師	専任教員	実務経験	単位数
				○	1
授業の概要・学習目標	精神障害のある人の行動は精神症状に影響され変化する。その人の行動の意味を考えることは、表面的な理解では十分ではない。精神障害のある人を理解するためには理論を基に、様々な側面から考えることがその人を深く理解することにつながる。看護がその役割を果たすためには、患者—看護師関係の中で関係を発展させ、互いに信頼関係を構築することが欠かせない。精神障害のある人を理解し関係を構築、発展させるために必要な知識・技術について、グループワーク、演習も使いながら学習を深めていく。 また、精神疾患の病態と精神障害のある人に対する治療・看護の概略を学び、精神障害のある人の地域での生活を支えるために必要なことが考えられるようにしていくことを目標とする。				時間数
					30
					学年
					1
					時期
					後期
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1 ～ 3 4 ～ 6 7 ～ 9 10 ～ 15	1. 精神科看護に必要な理論 1) 対象理解の方法 (1) セルフケア理論 (オレム・アンダーウッドモデル) (2) バイオ・サイコ・ソーシャルモデル (3) 精神力動理論 2) 精神科看護の役割 (1) 治療的環境 (2) 患者—看護師関係 (ペプロウ) 2. 精神症状・行動の理解と看護 1) 幻覚・妄想 2) うつ状態 3) 躁状態 4) 自傷行為 5) 不安障害 6) 強迫行為 7) せん妄 8) 不眠 3. 薬物療法を受けている人の看護 4. 薬物療法以外の治療法を受けている人の看護 1) 精神療法 2) 作業療法 3) 心理教育 4) SST 5) 認知行動療法 5. 関係構築のための技術 1) 精神科面接 2) コミュニケーション技術 6. 精神科チーム医療と看護 1) 多職種の役割と連携 7. 地域での生活を支える支援 1) オープンダイアログ 2) 精神科訪問看護 3) クループホーム 4) デイケア 5) 地域生活支援事業 8. 精神疾患の理解 1) 統合失調症 2) 感情障害 3) 神経症 4) パーソナリティ障害 5) 依存症 6) 発達障害 9. 精神障害とともに生きるということ 1) 精神障害者の生きにくさ 2) 地域で支えるために必要なこと			講義 <	

※授業科目担当の講師は、病院で精神看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(専門分野)

授業科目	精神障害のある人の看護	講師	外部講師	実務経験	単位数
				○	1
授業の概要・学習目標	精神科病棟について法律との関連や治療環境の特徴を学び、一般病棟との違いと役割について理解する。精神科における看護の特徴、援助の方法について学び、精神障害のある人が自己決定し回復していく過程を支えることの重要性についても理解を深めていく。 さまざまな精神疾患の病態と具体的な看護、治療における看護の役割と多職種連携について理解し、地域での生活を見据えた看護を実践するために必要な知識・技術・態度について学習する。				時間数
					30
					学年
					2
					時期
					後期
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1 ～ 4 5 ～ 8 9 ～ 15	1. 精神科看護学とは 2. 精神科病棟の治療的環境と生活環境 3. 精神科看護と法律 1) 精神保健福祉法 2) 医療観察法 4. 入院治療からの回復過程 1) リカバリ 2) ストレングス 3) エンパワメント 5. 精神科看護の基盤となる援助 1) 精神症状への看護 2) セルフケアの援助 3) 援助関係の構築（患者－看護師関係） 6. バイオ・サイコ・ソーシャルモデルでの援助 1) 症状マネジメント (1) 服薬自己管理への支援 (2) 心理教育 2) 精神療法 (1) 個人精神療法 (2) 集団精神療法 (3) 認知行動療法 3) リハビリテーション療法 (1) 作業療法 (2) 芸術療法 (3) 生活技能訓練〈SST〉 4) 家族への支援 5) 社会復帰・社会参加の支援 (1) リハビリテーションの概念 (2) 国際生活機能分類〈ICF〉			講義 <	

※授業科目担当の講師は、病院で精神看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(専門分野)

授業科目	精神看護過程	講師	専任教員	実務経験	単位数
				○	1
授業の概要・学習目標	精神障害のある人を理解するために必要な精神看護のアセスメントの特徴と看護実践の過程を学ぶ。 精神看護では対象を生活者の視点でとらえ、その人の言動・行動の意味を考える力、精神症状が日常生活のどこに影響を及ぼしているか考える力、生きづらさを理解し共感的に関わる力、セルフケアに合わせた看護を計画し実践する力が必要である。 精神看護学の各科目で学んだ知識を統合し看護に活用できるよう、事例を用いて看護過程を展開し、必要な援助を考えられるようにする。			時間数	
				1 5	
				学年	
				2	
				時期	
				後期	
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1	1. 精神看護におけるアセスメントの特徴 1) 精神看護学の概要（対象理解のための知識）の復習 2) バイオ・サイコ・ソーシャルモデルを用いた理解 3) 精神力動理論での理解 ヘンダーソンモデルとオレム・アンダーウッドモデル			講義	専任教員
2	2. 精神看護におけるコミュニケーション技術 1) コミュニケーション技法 2) 患者－看護師関係におけるコミュニケーション			講義	専任教員
3 ～ 7	3. 事例を用いた看護展開			講義・演習	専任教員
テキスト		講師作成資料			
評価方法		課題（可否）			

※授業科目担当の講師は、病院で精神看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(専門分野)

授業科目	看護実践と臨床判断Ⅰ	講師	外部講師	実務経験	単位数
				○	1
授業の概要・学習目標	在院日数の短縮に伴い、医療機関の一般病床が急性期医療中心となっている。同時に、急性期以外は、中間施設や在宅療養で支援する傾向が強まっている。このような傾向のなかで、どのような状態であっても、看護師は地域包括支援チームの構成メンバーとして、多くの職種と協働し、クライアントの最適な状況に向けて中心的な役割を果たすことが期待されている。多職種で構成されたチームの中で役割を果たすために必要な能力の1つとして「臨床判断能力」が示されている。特に医療施設外で、看護師が一人で様々なことを的確に判断する機会がこれまで以上に増えることは容易に予測されることから「臨床判断」の基本的な能力を育成し、臨地実習における実証的な経験を積み重ねたうえで卒業できるようにする。 看護実践と臨床判断Ⅰでは、基礎看護学の看護過程を基本に、事例で起こりやすい事象と対応を検討する。基礎看護学実習Ⅱに転用するための力をつける。				時間数
					20
					学年
					2
					時期
					前期
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1	1. 看護過程と臨床判断の関係（看護過程との違い） 2. 臨床判断の思考 1) タナーの概念 2) 臨床判断と臨床推論 3) 臨床判断モデル（4つのフェーズ） 4) 目指す「臨床判断能力」のレベル（卒業まで、就職後） 3. 看護実践過程における転用の方法 4. 臨床判断の実際（演習「何が起こる？どうする？」）			講義	外部講師
2				講義	外部講師
3				講義	外部講師
4					
5					
6 7 10				講義・演習	外部講師
テキスト		講師作成資料			
評価方法		課題（可否）			

※授業科目担当の講師は、病院で成人・老年看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(専門分野)

授業科目	看護実践と臨床判断Ⅱ	講師	専任教員	実務経験	単位数
				○	1
授業の概要・学習目標	在院日数の短縮に伴い、医療機関の一般病床が急性期医療中心となっている。同時に、急性期以外は、中間施設や在宅療養で支援する傾向が強まっている。このような傾向のなかで、どのような状態であっても、看護師は地域包括支援チームの構成メンバーとして、多くの職種と協働し、クライアントの最適な状況に向けて中心的な役割を果たすことが期待されている。 多職種で構成されたチームの中で役割を果たすために必要な能力の1つとして「臨床判断能力」が示されている。特に医療施設外で、看護師が一人で様々なことを的確に判断する機会がこれまで以上に増えることは容易に予測されることから「臨床判断」の基本的な能力を育成し、臨地実習における実証的な経験を積み重ねたうえで卒業できるようにする。 看護実践と臨床判断Ⅱでは、統合実習で経験した場面を切り取り省察を加え、行動の再構成を行う。 また、就職後に頻回に行う「診療に伴う援助」を教材に、起こり得る事象を推察し、最適な対応を検討する。2つの演習により就職への準備性を高める。			時間数	
				15	
				学年	
				3	
				時期	
				後期	
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1	1. 統合実習における臨床判断の事例演習（場面の再構成）			講義	専任教員
2	2. 臨床判断能力の自己評価			講義・演習	専任教員
3	3. 診療に伴う技術の経験評価（技術経験チェックリスト使用）			講義・演習	専任教員
4 と 7	4. 診療に伴う技術の基本手順から発生するリスクの考察と、最適な対応の計画書の作成。行動の実際（演習）			講義・演習	専任教員
テキスト		講師作成資料			
評価方法		課題（可否）			

※授業科目担当の講師は、病院で成人・老年看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(専門分野)

授業科目	看護実践マネジメント	講師	専任教員 外部講師	実務経験	単位数
				○	1
授業の概要・学習目標	医療チームの一員として看護の役割を果たすために必要な「複数の患者へ看護を実践する力」「複雑な状況に対応する力」「24 時間の継続看護を遂行する力」「医療サービスを提供する組織づくりに必要な管理を組織の一員として遂行する力」の基礎について講義・演習を行い統合実習に向けた学習をする。また、「多職種と連携・協働する力」については他学との共同演習で実践力を高める。 学習目標 1. 複数の患者を看護するためのシステムと基礎的な能力を理解することができる。 2. 夜間帯の患者の状況を学習し、必要な看護を理解することができる。 3. 医療組織の中の危険因子を知り、安全対策について理解することができる。 4. 事象事例の分析をとおし、医療事故における倫理的課題と専門職としての責任を自覚する。 5. 看護の役割を果たすために、対象理解のための対話力と、多職種と連携・協働する基礎的能力を身につける			時間数	
				15	
				学年	
				3	
				時期	
				後期	
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1	1. 看護実践マネジメントの基礎知識 1) 臨床実践能力とは 2) 医療チームにおける看護管理 3) さまざまな時間帯における患者の状況と看護 4) 医療組織の中の危険因子と安全対策			講義	専任教員
2	5) 複数患者への看護で必要な役割業務とは 6) 多重課題：複数の患者に対する看護の実際			講義	
3	2. 複数患者に対する看護の実際 1) 複数患者のアセスメント（優先順位の決定、段取りの考え方）			演習 個人ワーク グループワーク	
4	2) 複数患者を受け持ち1日の計画を立案、実施する 3) リフレクションにより場面の再構成をして学びを深める				
5	3. 多職種連携・協働における基礎知識 1) 多職種の役割 2) 連携・協働の必要性			講義	
6・7	4. 理学療法学科との共同学習 各校2グループに分かれ互いの校舎を使用し学ぶ内容や職種の役割、機能を理解する 互いの視点で事例を検討し連携・協働の実際を学ぶ			演習 共同学習	専任教員 外部講師
使用テキスト		①「看護実践マネジメント医療安全」メヂカルフレンド社 ②「看護管理」メディカ出版			
評価方法		課題（可否）			

※授業科目担当の講師は、病院で成人・老年看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(専門分野)

授業科目	看護研究の基礎	講師	外部講師	実務経験	単位数	
				○	1	
授業の概要・学習目標	看護における研究の意義と基本的な方法を講義・演習を通して学ぶ。 更に、日々の看護役割・業務で生じた疑問・問題を解決する際に、解決の方向性を見極め、先行研究を読み・活かす方法を習得する。 【学習目標】 1. 看護における研究の意義を理解する 2. 看護研究の基礎を学ぶ				時間数	
					15	
					学年	
					3	
					時期	
					前期	
回数	学 習 内 容			授業方法	講師	
1	1. 看護における研究の意義 1) 看護研究とは (1) 疑問・問題解決の方法としての位置付け (2) 研究の領域範囲			講義	外部講師	
2				講義・演習		外部講師
3						
4						
5	2. 研究の基礎 1) 看護研究のプロセス			講義・演習	外部講師	
6						
7						
テキスト		黒田裕子著「看護研究 Step by step」				
評価方法		課題（可否）				

※授業科目担当の講師は、病院での豊富な経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(専門分野)

授業科目	看護研究の応用	講師	外部講師	実務経験	単位数	
				○	1	
授業の概要・学習目標	看護における研究の意義と基本的な方法を講義・演習を通して学ぶ。 更に、日々の看護役割・業務で生じた疑問・問題を解決する際に、解決の方向性を見極め、先行研究を読み・活かす方法を習得する。 【学習目標】 1. 先行研究の看護実践的価値を理解する…研究論文の読み方、活用方法、クリティークの基本 2. 研究的態度を養う			時間数		
				30		
				学年		
				3		
				時期		
				前期・後期		
回数	学 習 内 容			授業方法	講師	
1 ～ 12	1. 研究の実際 1) 看護研究の実際：授業と演習の概要 （1）疑問・問題の明確化 ①関心事のエピソード ②疑問・問題を追及するための「問い」 （2）「問い」の解決方法を検討……文献検索の方法と文献要旨の読み取り ①「既に明らかになっていること」と「未知」の判別 ②テーマ追求への接近 ・キーワードの明確化 ・一次文献と二次文献の活用 ・文献要旨のまとめ方／文献カード作成、分類 （3）研究テーマの概念化（絞込み、決定） （4）研究計画書の作成 ①計画書の意義 ②研究動機と目的 ③研究デザインと研究方法の検討／量か質か ④研究方法 ・研究対象、期間 ・データ収集方法 ・分析方法 ・研究の限界 ・倫理的配慮 ・研究経費 （5）データ収集・処理の実際／フィールド交渉からデータ分析まで （6）研究論文の作成 ①論文の構成 ②結果と考察の関連性 ③資料「表・図」の作成 ④引用、参考文献について			講義・演習	外部講師	
13 14	2) 発表の方法と実際 （1）発表の意義 （2）発表の機会 （3）発表時のプレゼン（発表要旨含める） （4）評価の視点		演習			外部講師
15	2. クリティークの基本					
テキスト		黒田裕子著「看護研究 Step by step」				
評価方法		課題（可否）				

※授業科目担当の講師は、病院での豊富な経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(専門分野)

授業科目	災害医療と国際協力	講師	外部講師	実務経験	単位数
				○	1
授業の概要・学習目標	社会的使命を担う看護師は、日本の保健医療福祉における看護の役割だけでなく、世界規模の健康問題（感染・災害・貧困など）についても理解し、看護を通して国際協力していくことも視野に入れて考えていく必要がある。国内外を問わず、災害が多発している現代社会において、災害における看護の役割は重要である。災害が社会の変化や地域の人々との暮らしと密接に関連しながら、人々の生命や生活に影響を及ぼすことを理解し、災害直後から災害各期の看護活動を学習する。設置主体の病院は災害拠点病院であることから強化したい教育内容である。災害医療・看護を学ぶことによって命の大切さを実感し、演習を通して、専門職としての看護の役割を認識する機会とする。 国際協力とは、自分の国とは異なる国で、その国の社会、政治、経済、文化、保健医療システム、疾病構造など看護に影響を与えるあらゆるものを考慮して適用する看護であり、国際看護活動を支えるものである。看護の国際労働力の移動も含め、将来の看護の展望も含め考える。				時間数
					30
					学年
					3
					時期
					前期
回数	学 習 内 容			授業方法	講師
1 ～ 15	<災害医療> 1. 災害の歴史と災害医療 2. 災害医療対策 3. 災害と健康 1) 災害を受けやすい国土 2) 災害が人々の健康に及ぼす影響 4. 災害サイクルに沿った看護活動 1) 災害サイクル（準備期・対応期・回復期） 2) 災害の種類と災害種類別の被害の特徴 5. 災害発生時の社会の対応やしきみ 1) 災害に関連する制度（災害対策基本法・災害救助法・防災計画） 2) 情報伝達体制 3) 国際的支援のしくみ 4) 災害マネジメント 5) 災害関係各期間の支援体制 6) 個人の備え、災害ボランティア活動 6. 災害が人々の生命や生活に及ぼす影響 1) 災害種類別疾患の特徴 2) 災害時の被害者及び援助者の心理（心理回復プロセス・PTSR・PTSD） 7. 災害時に看護が果たす役割、災害各期における支援活動 1) 災害看護の基本的考え方と看護の役割 2) 災害関係諸機関との連携 3) 災害各期における看護活動、保健衛生管理 4) 避難所・仮設住宅・復興住宅での看護 5) 災害急性期に必要な技術（CPR・トリアージ） 6) 心のケア			講義	外部講師
1 ～ 15	<国際協力> 1. 国際看護の概念 1) 国際看護の必要性 2) 国際交流と国際協力 3) 国際協力の意義 4) 国際看護に必要な視点 2. 国際看護の必要性 1) 開発途上国の人口増加 2) 貧困問題・栄養不良 3) 保健指標・疾病構造・医療職数の格差 3. 日本の看護職による国際協力 1) 歴史 2) 政府機関・非政府機関 3) 国際機関による派遣 4. 保健医療の現状と対策 1) 疾病の動向・予防接種の現状 2) 特殊な状況下での健康阻害要因 3) 各国の保健医療活動・対策			講義・演習	外部講師
テキスト		看護の統合と実践 (3) 災害看護・国際看護 災害現場でのトリアージと応急処置			
評価方法		筆記試験（100点）			

※授業科目担当の講師は、災害現場や海外での看護活動の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(専門分野)

基礎看護学実習 I	講師	実務経験	単位数	時間数
	専任教員	○	2	90
1 学年：前期 後期				
目的：看護学生として関係性を発展させながら生活援助を行い、その人に応じた看護が提供できる基礎的能力を養う。 【基礎看護学実習 I ー①】 目標 1. 患者の暮らしや入院生活、気持ちをを知る 2. 患者の入院環境を知る 3. 患者の生活を支える看護活動を知る 4. 患者の生活を支える医療環境を知る 5. 看護師としての患者との関わりの基本について考えることができる 【基礎看護学実習 I ー②】 目標 1. 看護師としての関わりの基本について考え、患者と関わるができる。 2. 患者の暮らしと健康問題の関連に気づき、日常生活への影響を理解できる。 3. 患者のニーズに合わせた日常生活援助を実施する 4. チームの一員として協働の意識を持ち行動できる 5. 看護師を目指すものとして倫理観に基づいた責任ある判断と行動がとれる 6. よりよい援助を目指し自己の経験を省察できる				
評価方法： 実習目標の達成度を評価表に基づき総合的に評価する				

※授業科目担当の講師は、病院で成人・老年看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(専門分野)

基礎看護学実習Ⅱ	講師	実務経験	単位数	時間数
	専任教員	○	2	90
2 学年：前期				
目的： 基本的な看護のプロセスを用いて、その人らしく暮らしていくための看護を考え実践することができる。 目標： 1. 患者の健康状態を把握し、その人の暮らしへの影響が理解できる。 2. 生活上の課題を導き出し、その人に合った看護の実践ができる。 3. チームの一員として協働の意識をもち、主体的に行動できる 4. 看護師を目指す者として倫理観に基づいた責任ある判断と行動がとれる。 5. よりよい看護実践を目指し、自己の経験を省察できる。				
評価方法： 実習目標の達成度を評価表に基づき総合的に評価する				

※授業科目担当の講師は、病院で成人・老年看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(専門分野)

地域暮らしの実習 (地域・在宅看護論実習Ⅰ)	講師	実務経験	単位数	時間数
	専任教員	○	1	45
学年：後期				
目的： 地域の特性と地域で生活する人々を理解し、サポートするケアシステムや療養生活を継続するために必要な看護を学ぶ。 目標： 1. 地域の特性を理解し、その地域で暮らす人々の生活状況と健康ニーズを理解できる。 2. 地域住民の健康を支援する看護活動について理解できる。 3. 施設の活動に参加し対象とその家族の自立した生活を支える関りを理解できる。 4. 対象の自立した生活を支えるために関わる人々の役割と連携・協働について理解できる。 5. 対象の人権が守られるサポートシステムについて理解できる。 6. 地域でその人らしく暮らすことを支える 看護の役割を考察できる。				
評価方法： 実習目標の達成度を評価表に基づき総合的に評価する				

※授業科目担当の講師は、病院で成人・老年看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(専門分野)

暮らしを支え、医療とケア、生き方や思いをつなぐ実習（地域・在宅看護論実習Ⅱ）	講師	実務経験	単位数	時間数
	専任教員	○	2	90
学年：後期				
目的： 地域で療養している人とその家族がその人らしく暮らし続けるためのサポートシステムについて学ぶ 目標： 1. 地域で療養する人とその家族の健康状態、生活状況を理解できる 2. 地域で療養する人とその家族の望む暮らしを尊重し、その人にとって最善な支援を考えることができる 3. その人らしく暮らし続けるために必要な支援体制を理解できる。 4. 対象を尊重し、信頼される関わりを考え行動できる 5. 地域で療養している人とその家族がその人らしく暮らし続けるための看護の役割を考察できる。				
評価方法： 実習目標の達成度を評価表に基づき総合的に評価する				

※授業科目担当の講師は、病院で成人・老年看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(専門分野)

医療を受けながら社会生活をおくる人を支える看護実習	講師	実務経験	単位数	時間数
(成熟過程にある人への看護学実習Ⅰ)	専任教員	○	1	45
2 学年：後期				
目的： 1. 健康障害をもち医療を受けながら社会生活を送っている人と、その家族の生活を理解する。 2. 医療を受けながら、社会生活を送るために健康保持・増進・疾病予防のための看護を理解する。 目標： 1. その人とその家族の健康生活の課題、看護の必要性を知る。 2. その人らしい社会生活を送れる為の外来の機能、看護を理解する。 3. その人を支える、保健・医療・福祉との連携を知る。 4. その人と家族の意向・意思を尊重した看護を理解できる。 5. その人や家族に関わる看護師の活動を通じて、その専門性や役割を理解できる。				
評価方法： 実習目標の達成度を評価表に基づき総合的に評価する				

※授業科目担当の講師は、病院で成人・老年看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(専門分野)

健康障害と回復過程を支える看護実習	講師	実務経験	単位数	時間数
(成熟過程にある人の看護学実習Ⅱ)	専任教員	○	4	180
2 学年：後期～3 学年：前期				
目的： 成熟過程にある対象を理解し、健康状態に応じた看護を実践できる能力を習得する。 目標： 1. 成熟過程にあり、健康障害から回復過程にある受け持ち患者及び家族の特徴を理解できる。 2. 健康を障害された人の生活背景をふまえ、健康課題を明らかにし、必要となる援助を理解できる。 3. 成熟過程にある患者が自分自身の健康障害とこれからの生活を考えた意思決定を支える援助ができる。 4. セルフケアを適切に判断し、安全安楽が守られた個別的な看護を実践し、評価できる。 5. 保健医療福祉チームの一員として看護の役割を理解し、受け持ち患者の健康段階に適した、看護の継続を導き出せる。 6. 看護師を目指す者として倫理観に基づいた責任ある判断と行動がとれる。 7. よりよい援助を目指し自己の経験を省察できる。				
評価方法： 実習目標の達成度を評価表に基づき総合的に評価する				

※授業科目担当の講師は、病院で成人・老年看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(専門分野)

生き抜くことを支える看護実習	講師	実務経験	単位数	時間数
(成熟過程にある人への看護学実習Ⅲ)	専任教員	○	2	90
2 学年：後期～3 学年：前期				
目的 成熟過程にある対象を理解し、健康状態に応じた看護を実践できる能力を習得する。 目標： 1. 対象の生活背景を知り、全人的に捉えることができる。 2. 健康障害が発症・増悪する要因を理解し、対象の生活との関連や今後の経過を考えることができる。 3. 対象の発達段階をふまえて、疾病をコントロールしながら生き抜くために必要となる援助ができる。 4. 健康障害による対象とその家族の苦痛を理解し、苦痛の緩和ができ、疾病の増悪をおこさないために必要な援助ができる。 5. 対象とその家族が、よりよい暮らしを継続していくために必要な保健医療福祉を理解し、連携・協働の援助方法を考えることができる。 6. 倫理観に基づいた責任ある行動を実施しながら、対象やその家族と関わるができる。 7. よりよい援助を目指し自己の経験を省察できる。				
評価方法： 実習目標の達成度を評価表に基づき総合的に評価する				

※授業科目担当の講師は、病院で成人・老年看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(専門分野)

その人らしく人生をおくることを支える看護実習	講師	実務経験	単位数	時間数
(成熟過程にある人への看護学実習Ⅳ)	専任教員	○	1	45
2 学年：後期～3 学年：前期				
目的： 生活・療養の場における地域保健医療福祉チームの役割を理解し、その人や家族が必要としている社会資源の活用法を学ぶ 目標： 1. 地域で生活している対象との関わりを通じて、対象と家族を総合的にとらえることができる。 2. 施設での日常生活援助に参加し、健康と生活を支える援助について考えることができる。 3. 高齢者の残存能力・適応力を踏まえた安全策を学ぶことができる。 4. 保健医療福祉の動向及び生活場面を支える職種とその連携を理解する。 5. 高齢者と家族のQOLについて考え、自尊心や意思を尊重した関わりができる。 6. その人らしい人生の最終段階を地域でおくることを支える看護について考察する。				
評価方法： 実習目標の達成度を評価表に基づき総合的に評価する				

※授業科目担当の講師は、病院で成人・老年看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(専門分野)

成長・発達を支援する看護学実習	講師	実務経験	単位数	時間数
	専任教員	○	2	90
2 学年：後期～3 学年：前期				
目的： 小児とその家族の特徴を理解するとともに、必要な看護を実践できる基礎的能力を養う。 目標： 1. 健康な小児の成長・発達を理解し、日常生活習慣・社会性の獲得を促進させる援助を実践する。 2. 小児の健康障害の特徴を理解し、発達段階を考慮した看護を実践する。 3. 小児とその家族が最適な生活をおくるための、切れ目のないケアを継続できるよう、保健医療福祉における多職種の連携・協働の実際を理解する。 4. 小児看護における倫理観に基づいた責任ある行動をとる。				
評価方法： 実習目標の達成度を評価表に基づき総合的に評価する				

※授業科目担当の講師は、病院で小児看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(専門分野)

生命の発育を支える看護学実習	講師	実務経験	単位数	時間数
	専任教員	○	2	90
2 学年：後期～3 学年：前期				
目的： 周産期（妊娠・分娩・産褥・新生児）にある人とその家族を理解し、対象に応じた看護を実践する基礎的な能力を養う。 目標： 1. 妊婦・産婦・褥婦・新生児の正常な経過を理解する。 2. 妊婦・産婦・褥婦・新生児の特徴を理解し、対象の安全・安楽・プライバシーに配慮して、基本的援助を実践する。 3. 妊婦・産婦・褥婦およびその家族に対する保健活動および地域における社会的支援について理解し、親子関係・家族関係について理解を深める。 4. 生命の誕生や生命を育む過程に触れ、生命観や母性・父性について自己の考えを深める。				
評価方法： 実習目標の達成度を評価表に基づき総合的に評価する				

※授業科目担当の講師は、病院で母性看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(専門分野)

精神看護学実習	講師	実務経験	単位数	時間数
	専任教員	○	2	90
2 学年：後期～3 学年：前期				
目的： 精神障害のある人を理解し、その人らしい生活が送れるように、自己決定を支える援助に必要な能力を培う。 目標： 1. 精神障害の症状と治療および看護の特徴について理解できる。 2. チーム医療における各チームメンバーの役割と機能、連携を知り、看護師の役割と責任を理解できる。 3. 対象をバイオ・サイコ・ソーシャルモデルに基づいて理解できる。 4. 対象の自己決定を支え、その人らしい生活に合わせた援助を計画し、実践・評価することができる。 5. 患者－看護師関係の過程を理解し、看護師としての態度や患者への関わりの実践ができる。				
評価方法： 実習目標の達成度を評価表に基づき総合的に評価する				

※授業科目担当の講師は、病院で精神看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。

(専門分野)

統合実習	講師	実務経験	単位数	時間数
	専任教員	○	2	90
3 学年：後期				
目的： 保健医療福祉での連携・協働を通して、看護チームの一員の体験、夜間実習、複数患者の受け持ちを行い、知識・技術・態度を統合し臨床実践能力の向上を図る。 目標： 1. 看護部の役割と看護管理の実際を知り、病棟・チームにおける看護師の役割と機能について理解を深める。 2. 看護の継続に必要な夜間の入院患者の状況、看護体制や業務と援助の実際を理解する。 3. 複数患者の看護に必要な優先順位を考慮し、臨床判断に基づいた看護援助を実施できる。 4. 保健医療福祉での多職種との連携・協働を通して専門職業人としての力を身につける。 5. 看護師としてのビジョンを描き、自己の課題を明らかにできる。				
評価方法： 実習目標の達成度を評価表に基づき総合的に評価する				

※授業科目担当の講師は、病院で成人・老年看護の経験があるため、実務経験欄に○がついています。